

令和4年度  
(2022年)

# 農作物有害動植物発生予察事業年報

島根県農業技術センター  
島根県病害虫防除所



目 次

I. 事業の目的	1
II. 事業の実施の方針と概要	1
III. 事業対象有害動植物の種類	1
IV. 事業実施組織と本年度の実施方法	2
1. 病虫害防除所における予察事業担当者	2
2. 病虫害防除員	2
3. 予察圃場設置一覧	2
4. 予察灯・フェロモントラップの設置一覧	2
V. 事業内容	3
1. 令和4年度における調査観察成績	3
I) 普通作物等	3
(Ⅰ) イネ	3
1. イネの生育状況	3
2. 病虫害に関する調査結果	3
1) 稲こうじ病	3
2) 葉いもち	3
3) 穂いもち	4
4) 縞葉枯病	5
5) ばか苗病	5
6) もみ枯細菌病	5
7) 紋枯病	6
8) イネミズゾウムシ	7
9) コブノメイガ	8
10) セジロウンカ	10
11) ツマグロヨコバイ	12
12) トビイロウンカ	13
13) ニカメイガ	15
14) 斑点米カメムシ類	16
15) ヒメトビウンカ	17
16) フタオビコヤガ	18
(Ⅱ) ムギ	19
1. ムギの生育状況	19
2. 病虫害に関する調査結果	19
1) さび病類、うどんこ病、斑葉病、雲形病、赤かび病	19
(Ⅲ) ダイズ	21
1. ダイズの生育状況	21
2. 病虫害に関する調査結果	21
1) アブラムシ類	21
2) ハスモンヨトウ	21
3) カメムシ類	22
4) その他の害虫類	23
II) 果樹	24

(I) ナシ	24
1. 病害虫に関する調査結果	24
1) 黒斑病、黒星病	24
2) ナシヒメシンクイ	27
3) ナシオオシンクイガ	28
4) モモシンクイガ	28
5) チャノコカクモンハマキ	29
6) チャハマキ	29
7) ハダニ類、カイガラムシ類	30
8) アブラムシ類	31
(II) カキ	32
1. 病害虫に関する調査結果	32
1) 炭疽病	32
2) うどんこ病、円星落葉病、角斑落葉病、灰色かび病	32
3) カキミガ	35
4) カメムシ類	35
5) チャノコカクモンハマキ	36
6) チャハマキ	36
7) カキクダアザミウマ	36
8) フジコナカイガラムシ	37
(III) クリ	38
1. 病害虫に関する調査結果	38
1) モモノゴマダラノメイガ	38
2) クスサン	38
III) 野菜	39
(I) キャベツ	39
1. 病害虫に関する調査結果	39
1) 黒腐病	39
2) 菌核病	39
3) モンシロチョウ	39
4) コナガ	40
5) ヨトウガ	40
6) ウワバ類	40
7) アブラムシ類	40
8) ハスモンヨトウ	41
9) シロイチモジヨトウ	42
10) オオタバコガ	43
11) キスジノミハムシ	44
(II) タマネギ	45
1. 病害虫に関する調査結果	45
1) べと病	45
2) 白色疫病、ボトリチス属菌による葉枯症、腐敗病・軟腐病	45
(III) イチゴ	46
1. 病害虫に関する調査結果	46
1) 灰色かび病	46

2)	うどんこ病	46
3)	炭疽病	47
4)	アブラムシ類	47
5)	ハダニ類	48
6)	アザミウマ類	48
7)	コナジラミ類	49
IV)	花卉	50
(I)	キク	50
1.	病害虫に関する調査結果	50
1)	白さび病	50
2)	アザミウマ類	50
3)	アブラムシ類	51
4)	ハダニ類	51
V)	病害虫発生程度別面積	52
VI)	病害虫発生経過の概要及び発生原因の解析	55
1.	イネの病害虫	55
2.	ムギの病害	56
3.	ダイズの病害虫	56
4.	ナシの病害虫	56
5.	カキの病害虫	57
6.	夏秋キャベツの病害虫	58
7.	冬キャベツの病害虫	58
8.	タマネギの病害虫	59
9.	イチゴの病害虫	59
10.	キクの病害虫	59
VII)	情報の提供、諸報告に関する事項	60
1.	情報の提供先	60
2.	発表状況	61
3.	発表内容	61
注意報	第1号 カキ、ナシ、スモモ 果樹カメムシ	62
	第2号 水稲 斑点米カメムシ類	64
特殊報	第1号 ピーマン えそ斑紋病	66
	第2号 メロン 炭腐病	69
技術情報	第1号 果樹 カメムシ類	71
VIII)	気象表	72

## I 事業の目的

病害虫の防除を適時で経済的なものとするため、病害虫の発生、農作物の生育及び気象などの状況を調査して、病害虫の発生を予察しそれに基づく情報を関係者に提供する。

## II 事業実施の方針と概要

指定有害動植物に重点をおき、これらの病害虫の発生予察法の確立を図るとともに、農業普及部及び病害虫防除員などと連絡を密にし、確実な情報の収集に努め、発生予報、特殊報、注意報及びその他必要な情報をすみやかに提供して、適期防除による被害防止に努めた。また、JAなど生産者団体とは絶えず緊密な連絡をとり、重要な病害虫の発生に際しては、その都度資料を提示して適切な対策について協議決定し、防除に万全を期した。

## III 事業対象有害動植物の種類

### 1. 普通作物等

- |        |     |  |
|--------|-----|--|
| 1) イネ  | 指 定 | 稲こうじ病、いもち病、縞葉枯病、ばか苗病、もみ枯細菌病、紋枯病、イネミズゾウムシ、コブノメイガ、セジロウンカ、ツマグロヨコバイ、トビイロウンカ、ニカメイガ、斑点米カメムシ類、ヒメトビウンカ、フタオビコヤガ |
| 2) ムギ  | 指 定 | 赤かび病、うどんこ病   |
| 3) ダイズ | 指 定 | アブラムシ類、吸実性カメムシ類、ハスモンヨトウ  |

### 2. 野菜

- |         |     |  |
|---------|-----|--|
| 1) イチゴ  | 指 定 | うどんこ病、炭疽病、灰色かび病、アザミウマ類、アブラムシ類、ハダニ類               |
| 2) キャベツ | 指 定 | 菌核病、黒腐病、アブラムシ類、ハスモンヨトウ、ヨトウガ、コナガ、オオタバコガ、シロイチモジヨトウ |
| 3) タマネギ | 指 定 | 白色疫病、べと病   |

### 3. 果樹

- |       |     |  |
|-------|-----|--|
| 1) カキ | 指 定 | 炭疽病、アザミウマ類、カイガラムシ類、カキノヘタムシガ、ハマキムシ類、果樹カメムシ類 |
| 2) ナシ | 指 定 | 黒星病、黒斑病、アブラムシ類、シンクイムシ類、ハダニ類、ハマキムシ類         |

### 4. 花き

- |       |     |                    |
|-------|-----|--------------------|
| 1) キク | 指 定 | 白さび病、アザミウマ類、アブラムシ類 |
|-------|-----|--------------------|

### 5. 作物共通

- |     |   |
|-----|---|
| 措 定 | オオタバコガ、シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウ、ヨトウガ、コナガ、果樹カメムシ類 |
|-----|---|

#### IV 事業実施組織と本年度の実施方法

農作物有害動植物発生予察事業実施要綱、同要領に準拠する。

##### 1. 病虫害防除所における予察事業担当者

職名	氏名	担当
科長	澤村信生	虫害
専門研究員	福間貴寿	病害
専門研究員	永島 進	病害
主任研究員	角菜津子	虫害
主任研究員	奈良井祐隆	虫害
研究員	近藤亜美	病害
研究員	西山雄大	虫害

##### 2. 病虫害防除員

水稻に関する病虫害防除員は、本県の主要産地である市町村に17名を配置している。

##### 3. 予察圃場設置一覧

###### 1) 県予察圃場

種類	設置場所	品種等
イネ	出雲市芦渡町	コシヒカリ
ムギ	〃	ミナミノカオリ、サチホゴールド
ナシ	〃	二十世紀（47年生樹）
カキ	〃	富有（47年生樹）

###### 2) 地区予察圃場

種類	設置地点名
イネ	邑智郡川本町田窪
ナシ	安来市中津町
カキ	出雲市東福町

##### 4. 予察灯・フェロモントラップ設置一覧

病虫害名	設置場所	備考
ウンカ類	出雲市芦渡町	予察灯
ウンカ類	〃	粘着誘殺灯
ニカメイチュウ	〃	フェロモントラップ
モモシンクイガ	安来市中津町	〃
ナシヒメシンクイ	〃	〃
ヨトウガ類	益田市飯田町	〃

## V 事業内容

### 1. 令和4年度における調査観察成績

#### I) 普通作物等

##### (I) イネ

##### 1. イネの生育状況

###### 1) 生育概況

5月中旬から下旬が高温・多照で推移したことから生育は順調で分けつも旺盛となった結果、穂数は「やや多い」となった。また、1穂当たり籾数は、6月中旬から7月上旬及び7月下旬から8月上旬が高温・多照で推移したことから「平年並み」となり、全籾数は「やや多い」となった。

登熟は、7月下旬から8月上旬が高温・多照で推移したものの、9月上旬から中旬の日照不足等の影響により「やや不良」となった。

以上のことから、10a 当たり収量は前年より2kg少ない519kgとなり、作況指数は101（昨年100）の「平年並み」となった。

病害虫に関しては、斑点米カメムシ類について、7月15日に注意報が発表された。

###### 2) 作柄及び検査概況

「コシヒカリ」では、出穂後の高温寡照等により心白腹白や整粒不足が発生し、1等米比率が低かった。一方で、「きぬむすめ」等の品種は、平年並みの1等米比率であった。

（農業技術センター技術普及部作成）

### 2. 病害虫に関する調査結果

#### 1) 稲こうじ病

##### (1) 発病状況調査

###### ①巡回における調査

調査時期	品種	調査ほ場数	発病ほ場率	調査株数	発病株率	株当たり病斑数
9月中旬	きぬむすめ	115	29.6 %	5750	2.96 %	0.06

#### 2) 葉いもち

##### (1) 発病状況調査

###### ①定点における調査

○県予察圃場（出雲市芦渡町）

区別	調査月日	草丈	茎数	発病株率	発病度
普通肥料区	6. 14	38.3 cm	22.3 本	0 %	0
	28	61.9	25.6	0	0
	7. 4	76.4	27.1	0	0
	12	89.5	26.3	0	0
	26	113.5	27.1	0	0
	8. 3	116.3	26.8	0	0
窒素増量区	6. 14	35.8	18.7	0	0
	28	58.6	23.5	0	0
	7. 4	73.4	24.5	0	0
	12	88.5	24.3	0	0
	26	110.0	21.5	0	0
	8. 3	115.5	24.8	0	0

注) 調査株数：50株、品種：コシヒカリ（5月7日植え）



○地区予察圃場（川本町田窪）

区別	調査月日	草丈	茎数	発病株率	発病度
普通肥料区	6. 13	38.6 cm	18.0 本	0 %	0
	27	52.5	22.3	0	0
	7. 5	67.9	22.0	0	0
	14	77.3	22.6	0	0
	25	86.9	22.3	0	0
	8. 4	91.1	22.6	0	0

注) 調査株数：50株、品種：コシヒカリ

②巡回による調査（特定圃場）

ア. 出雲市

調査月日	発生ほ場率	発病株率	発病度
6. 14	0 %	0 %	0
28	0	0	0
7. 4	0	0	0
12	0	0	0
16	0	0	0
8. 3	0	0	0

注) 20圃場、500株調査

イ. 雲南市（大東町、加茂町）

調査月日	発生ほ場率	発病株率	発病度
6. 14	0 %	0 %	0
24	0	0	0
7. 5	5.0	1.0	0.25
12	15.0	5.8	1.45
26	15.0	5.8	1.45
8. 3	25.0	10.4	2.60

注) 20圃場、500株調査

ウ. 大田市、邑智郡、江津市

調査月日	発生ほ場率	発病株率	発病度
6. 13	0 %	0 %	0
27	0	0	0
7. 5	0	0	0
14	0	0	0
25	0	0	0
8. 4	0	0	0

注) 30圃場、750株調査

3) 穂いもち

(1) 発病状況調査

①定点における調査

○県予察圃場（出雲市芦渡町）

区別	8月26日	
	発病株率	発病穂率
普通肥料区	0 %	0 %
窒素増量区	0	0

注) 調査株数：50株

○地区予察圃場（川本町田窪）

区別	8月22日	
	発病株率	発病穂率
普通肥料区	0 %	0 %

②巡回における調査（特定圃場）

調査地域	調査月日	調査圃場数	発生圃場率	調査穂数	発病穂率
出雲市	8.26	20	0 %	9410 本	0 %
雲南市（大東町、加茂町）	8.26	20	5.0	10640	0.04
大田市、邑智郡、江津市	8.22	30	0	16160	0
合計・平均		70	1.7	36210	0.01

4) 縞葉枯病

(1) 発病状況調査

①巡回における調査

調査時期	調査圃場数	発生圃場率	調査株数	発病株率	発病度
6月中旬	70	0 %	1750 株	0 %	0
6月下旬	70	0	1750	0	0
7月上旬	70	0	1750	0	0
7月中旬	70	0	1750	0	0
7月下旬	70	0	1750	0	0
8月上旬	70	0	1750	0	0
8月下旬	70	0	1750	0	0

5) ばか苗病

(1) 発病状況調査

①巡回における調査

調査時期	調査ほ場数	発生ほ場率	調査株数	発病株率
6月下旬	70	0 %	1750 株	0 %
7月下旬	70	0	1750	0

6) もみ枯細菌病

(1) 発病状況調査

①巡回における調査

調査時期	品種	調査ほ場数	発生ほ場数	調査株数	発病株数	調査穂数	発病穂数
9月中旬	きぬむすめ	115	17	5750 株	35 株	58740 本	37 本

## 7) 紋枯病

### (1) 発病状況調査

#### ① 定点における調査

○ 県予察圃場 (出雲市芦渡町)

区別	調査月日	草丈	茎数	発病株率	発病度
普通肥料区	6. 14	38.3 cm	22.3 本	0 %	0
	28	61.9	25.6	0	0
	7. 4	76.4	27.1	0	0
	12	89.5	26.3	0	0
	26	113.5	27.1	0	0
	8. 3	116.3	26.8	12.0	5.0
	26	113.0	21.3	14.0	9.5
	窒素増量区	6. 14	35.8	18.7	0
28		58.6	23.5	0	0
7. 4		73.4	24.5	0	0
12		88.5	24.3	0	0
26		110.0	21.5	0	0
8. 3		115.5	24.8	2.0	0.5
26		113.7	21.3	2.0	0.5

注) 調査株数 : 50 株、品種 : コシヒカリ (5 月 7 日植え)

○ 地区予察圃場 (川本町田窪)

区別	調査月日	草丈	茎数	発病株率	発病度
普通肥料区	6. 13	38.6 cm	18.0 本	0 %	0
	27	52.5	22.3	0	0
	7. 5	67.9	22.0	0	0
	14	77.3	22.6	0	0
	25	86.9	22.3	0	0
	8. 4	91.1	22.6	0	0
	22	112.3	20.2	0	0

注) 調査株数 : 50 株、品種 : コシヒカリ

#### ② 巡回による調査 (特定圃場)

ア. 出雲市

調査月日	発生ほ場率	発病株率	発病度
6. 14	0 %	0 %	0
28	0	0	0
7. 4	0	0	0
12	0	0	0
26	5.3	0.2	0.05
8. 3	15.8	1.5	0.37
26	15.8	2.7	1.00

注) 20 圃場、500 株調査

イ. 雲南市 (大東町、加茂町)

調査月日	発生ほ場率	発病株率	発病度
6. 14	0 %	0 %	0
24	0	0	0
7. 4	5.0	0.2	0.05
12	10.0	4.2	1.05
26	20.0	8.2	2.05
8. 3	25.0	8.6	2.15
26	45.0	9.0	3.65

注) 20 圃場、500 株調査

ウ. 大田市、邑智郡、江津市

調査月日	発生ほ場率	発病株率	発病度
6. 13	0 %	0 %	0
27	0	0	0
7. 5	0	0	0
14	3.5	0.1	0.03
25	13.8	0.6	0.14
8. 4	24.1	1.0	0.28
22	24.1	1.0	0.38

注) 30 圃場、750 株調査

## 8) イネミズゾウムシ

(1) 予察灯による成虫の誘殺状況

① 半月別誘殺表

地点名		出雲市芦渡町		地点名		出雲市芦渡町		地点名		出雲市芦渡町	
月・半月	本年	平年	月・半月	本年	平年	月・半月	本年	平年	月・半月	本年	平年
4. 1	0	0.0	6. 1	0	0.6	8. 1	6	8.2			
2	0	0.0	2	0	1.4	2	3	4.3			
3	0	0.0	3	0	0.5	3	0	3.2			
4	1	0.0	4	0	0.5	4	0	1.3			
5	0	0.0	5	0	0.9	5	0	0.4			
6	0	0.2	6	0	5.3	6	0	0.9			
5. 1	1	8.9	7. 1	2	1.7	9. 1	1	0.7			
2	0	6.3	2	21	4.7	2	0	0.1			
3	34	1.6	3	11	3.3	3	0	0.0			
4	0	14.8	4	28	10.1	4	0	0.0			
5	7	1.5	5	8	16.6	5	0	0.0			
6	1	3.1	6	10	10.9	6	0	0.0			
							総 計	134	112.0		

(2) 巡回による調査

① 5月30日～6月1日調査

圃場数	被害程度別株数 (25株/圃場)					合計		
	A	B	C	D	E			
東部平坦	24	90	58	53	107	292	600	
東部山間	6	0	0	0	30	120	150	
西部平坦	16	0	0	8	75	317	400	
西部山間	0	-	-	-	-	-	-	
合 計	46	90	58	61	212	729	1150	
平 均		2.0	1.3	1.3	4.6	15.9	25.0	
							被害株率 (%)	0.4
							被害度	18.9

イネミズゾウムシ被害程度 (被害葉率)

A : 91%以上, B : 61~90%, C : 31~60%, D : 1~30%, E : 0

## 9) コブノメイガ

(1) 予察灯・粘着誘殺灯による成虫の誘殺状況

① 半旬別誘殺表

地点 月・半旬	出雲市芦渡町			
	60W白熱灯		20W粘着板	
	本年	平年	本年	平年
6.1	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0
7.1	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.1
4	0	0.0	0	0.0
5	0	0.1	0	0.0
6	0	0.0	0	0.5
8.1	0	0.0	0	0.1
2	0	0.0	0	0.1
3	0	0.0	0	0.1
4	0	0.0	0	0.3
5	0	0.0	0	0.4
6	0	0.0	0	1.3
9.1	0	0.0	0	1.9
2	0	0.0	0	2.6
3	0	0.0	0	0.3
4	0	0.0	0	0.2
5	0	0.0	0	0.3
6	0	0.0	0	0.4
総計	0	0.2	0	8.7

注) 予察灯は4～9月(4～5月はデータ省略)、粘着誘殺灯は6～9月の間設置した。

(2) 定点における調査

① 6月27～29日調査

	圃場数	50株当たり成虫数	25株当たり被害株数
東部平坦	24	0	0
東部山間	6	0	0
西部平坦	16	0	0
西部山間	0	-	-
合計	46	0	0
平均		0	0
圃場率(%)		0	0
被害株率(%)			0

② 8月1日～3日調査

	圃場数	50株当たり成虫数	25株当たり被害株数
東部平坦	24	0	0
東部山間	6	0	0
西部平坦	16	0	0
西部山間	0	-	-
合計	46	0	0
平均		0	0
圃場率(%)		0	0
被害株率(%)			0

③ 8月24～27日調査

	圃場数	50株当たり成虫数	25株当たり被害株数
東部平坦	14	0	2
東部山間	6	0	0
西部平坦	16	1	0
西部山間	0	-	-
合計	36	1	2
平均		0.0	0.1
圃場率(%)		2.8	5.6
被害株率(%)			0.2

## 10) セジロウンカ

(1) 予察灯・粘着誘殺灯による成虫の誘殺状況

① 半旬別誘殺表

地点 月・半旬	出雲市芦渡町			
	60W白熱灯		20W粘着板	
	本年	平年	本年	平年
5.1	0	0.0	—	—
2	0	0.0	—	—
3	0	0.0	—	—
4	0	0.1	—	—
5	0	0.0	—	—
6	0	0.0	—	—
6.1	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0
3	0	1.2	0	2.4
4	0	0.2	0	0.1
5	0	1.3	3	0.0
6	0	1.6	2	0.2
7.1	0	3.2	17	5.2
2	0	11.6	2	61.2
3	2	3.7	17	14.4
4	2	0.6	0	3.1
5	3	13.7	0	1.2
6	0	3.7	0	28.4
8.1	0	1.0	2	5.8
2	1	1.6	1	8.5
3	25	4.8	2	6.2
4	246	4.5	1	17.1
5	15	3.3	3	17.1
6	4	9.7	8	55.8
9.1	0	3.7	10	12.4
2	0	18.2	2	5.9
3	0	1.7	1	10.0
4	0	1.6	1	1.7
5	0	1.5	1	0.2
6	0	0.3	0	2.4
総計	298	92.8	73	259.3

注) 予察灯は4～9月(4月はデータ省略)、粘着誘殺灯は6～9月の間設置した。

(2) 定点と巡回による調査

① 6月27～29日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	24	10	0	10
東部山間	6	0	0	0
西部平坦	16	1	6	7
西部山間	0	-	-	-
合計	46	11	6	17
平均		0.2	0.1	0.4
圃場率 (%)		15.2	4.3	19.6
成虫比				64.7

注) 調査方法：25株払い落とし（粘着板使用）

② 8月1～3日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	24	16	113	129
東部山間	6	0	6	6
西部平坦	16	7	14	21
西部山間	0	-	-	-
合計	46	23	133	156
平均		0.5	2.9	3.4
圃場率 (%)		32.6	50.0	54.3
成虫比				14.7

注) 調査方法：25株払い落とし（粘着板使用）

③ 8月29日～31日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	14	6	40	46
東部山間	6	0	0	0
西部平坦	16	2	5	7
西部山間	0	-	-	-
合計	36	8	45	53
平均		0.2	1.3	1.5
圃場率 (%)		13.9	8.3	13.9
成虫比				15.1

注) 調査方法：25株払い落とし（粘着板使用）



11) ツマグロヨコバイ

(1) 予察灯による成虫の誘殺状況

① 半旬別誘殺表

地点名 月・半旬	出雲市芦渡町		地点名 月・半旬	出雲市芦渡町		地点名 月・半旬	出雲市芦渡町	
	本年	平年		本年	平年		本年	平年
4.1	0	0.0	6.1	0	0.2	8.1	0	49.7
2	0	0.0	2	0	0.3	2	0	21.9
3	0	0.0	3	0	0.8	3	0	28.0
4	0	0.1	4	0	1.1	4	0	7.0
5	0	0.1	5	0	3.4	5	0	1.9
6	0	0.0	6	1	5.7	6	0	7.4
5.1	0	1.6	7.1	0	10.2	9.1	0	40.4
2	0	0.3	2	0	9.2	2	0	19.8
3	0	0.0	3	0	10.5	3	0	38.2
4	0	0.0	4	0	11.1	4	0	3.7
5	2	0.0	5	2	69.4	5	0	1.2
6	1	0.0	6	0	94.3	6	0	1.3
総計							6	438.8

(2) 定点と巡回による調査

① 6月27～29日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	24	1	2	3
東部山間	6	0	0	0
西部平坦	16	2	8	10
西部山間	0	-	-	-
合計	46	3	10	13
平均		0.1	0.2	0.3
圃場率 (%)		6.5	10.9	17.4
成虫比				23.1

注) 調査方法：25株払い落とし（粘着板使用）

② 8月1～3日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	24	6	6	12
東部山間	6	1	0	1
西部平坦	16	4	72	76
西部山間	0	-	-	-
合計	46	11	78	89
平均		0.2	1.7	1.9
圃場率 (%)		15.2	13.0	23.9
成虫比				12.4

注) 調査方法：25株払い落とし（粘着板使用）

③ 8月29～31日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	14	0	0	0
東部山間	6	0	0	0
西部平坦	16	31	42	73
西部山間	0	-	-	-
合計	36	31	42	73
平均		0.9	1.2	2.0
圃場率 (%)		5.6	5.6	5.6
成虫比				42.5

注) 調査方法：25株払い落とし（粘着板使用）

12) トビイロウンカ

(1) 予察灯・粘着誘殺灯による成虫の誘殺状況

① 半旬別誘殺表

地点 月・半旬	出雲市芦渡町			
	60W白熱灯		20W粘着板	
	本年	平年	本年	平年
5.1	0	0.0	—	—
2	0	0.0	—	—
3	0	0.0	—	—
4	0	0.0	—	—
5	0	0.0	—	—
6	0	0.0	—	—
6.1	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0
7.1	0	0.0	0	0.0
2	0	0.5	0	1.1
3	0	0.1	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0
5	0	0.3	0	0.0
6	0	0.4	0	0.3
8.1	0	0.2	0	1.0
2	0	0.1	0	0.2
3	0	0.1	1	0.1
4	2	0.1	9	0.8
5	0	0.7	3	3.4
6	0	1.0	1	7.2
9.1	0	0.8	0	14.2
2	0	0.8	0	18.3
3	0	0.1	0	25.3
4	0	0.5	0	9.4
5	0	0.3	0	1.4
6	0	0.4	0	2.9
総計	2	6.4	14	85.7

注) 予察灯は4～9月（4～5月はデータ省略）、粘着誘殺灯は6～9月の間設置した。

(2) 定点と巡回による調査

① 6月27～29日調査

	圃場数	雌成虫		雄成虫		幼虫	合計
		短翅	長翅	短翅	長翅		
東部平坦	24	0	0	0	0	0	0
東部山間	6	0	0	0	0	0	0
西部平坦	16	0	0	0	0	0	0
西部山間	0	-	-	-	-	-	-
合計	46	0	0	0	0	0	0
平均		0	0	0	0	0	0
圃場率 (%)		0	0	0	0	0	0
成虫比							0

注) 調査方法：25株払い落とし（粘着板使用）

② 8月1～3日調査

	圃場数	雌成虫		雄成虫		幼虫	合計
		短翅	長翅	短翅	長翅		
東部平坦	24	1	0	0	0	0	1
東部山間	6	0	0	0	1	0	1
西部平坦	16	1	0	0	0	0	1
西部山間	0	-	-	-	-	-	0
合計	46	2	0	0	1	0	3
平均		0.0	0	0	0.0	0	0.1
圃場率 (%)		4.3	0	0	2.2	0	6.5
成虫比							100

注) 調査方法：25株払い落とし（粘着板使用）

③ 8月29～31日調査

	圃場数	雌成虫		雄成虫		幼虫	合計
		短翅	長翅	短翅	長翅		
東部平坦	14	1	1	0	2	31	35
東部山間	6	0	0	0	0	0	0
西部平坦	16	3	2	0	2	0	7
西部山間	0	-	-	-	-	-	-
合計	36	4	3	0	4	31	42
平均		0.1	0.1	0	0.1	0.9	1.2
圃場率 (%)		11.1	8.3	0	11.1	5.6	22.2
成虫比							26.2

注) 調査方法：25株払い落とし（粘着板使用）

### 13) ニカメイガ

#### (1) 予察灯による成虫の誘殺状況

##### ① 半旬別誘殺表

地点名 月・半旬	出雲市芦渡町		地点名 月・半旬	出雲市芦渡町		地点名 月・半旬	出雲市芦渡町	
	本年	平年		本年	平年		本年	平年
4.1	0	0.0	6.1	0	8.5	8.1	0	1.4
2	0	0.0	2	1	3.4	2	0	1.7
3	0	0.0	3	4	1.4	3	0	1.5
4	0	0.0	4	0	2.1	4	0	0.5
5	0	0.5	5	1	0.4	5	0	0.2
6	0	0.2	6	0	0.1	6	0	0.8
5.1	0	0.3	7.1	0	0.5	9.1	0	0.2
2	0	0.3	2	0	0.0	2	0	0.2
3	0	1.3	3	0	0.1	3	0	0.0
4	0	3.0	4	1	0.5	4	0	0.4
5	0	6.9	5	0	1.4	5	0	0.0
6	0	16.6	6	0	4.5	6	0	0.0
						総計	7	58.9

##### ② 半旬別誘殺表 (フェロモントラップ)

地点 月・半旬	出雲市芦渡町		地点 月・半旬	出雲市芦渡町	
	本年	平年		本年	平年
4.1	0	0.0	7.1	1	0.9
2	0	0.0	2	0	0.7
3	0	0.2	3	0	0.5
4	0	0.4	4	1	1.5
5	0	0.5	5	1	2.0
6	1	1.6	6	0	6.5
5.1	1	2.6	8.1	5	6.4
2	5	10.6	2	0	5.4
3	12	11.9	3	2	3.9
4	11	13.0	4	0	6.4
5	5	31.6	5	1	2.6
6	17	31.5	6	0	4.4
6.1	8	27.8	9.1	1	3.4
2	7	12.7	2	1	3.8
3	0	9.1	3	2	1.3
4	1	3.2	4	0	0.2
5	0	1.6	5	0	2.1
6	1	1.6	6	1	1.1
			総計	85	213.0

## (2) 定点と巡回による調査

調査日	6月27～29日		8月1～3日		8月29～31日	
	圃場数	被害株数	圃場数	被害株数	圃場数	被害株数
東部平坦	24	0	24	0	14	0
東部山間	6	0	6	0	6	0
西部平坦	16	0	16	0	16	0
西部山間	0	-	0	-	0	-
合計	46	0	46	0	36	0
平均		0		0		0
圃場率 (%)		0		0		0
被害株率 (%)		0		0		0

注) 調査方法：25株見取り調査

## 14) カメムシ類

(1) 予察灯によるアカスジカスミカメ成虫の誘殺状況

① 半月別誘殺表

地点名 月・半月	出雲市芦渡町		地点名 月・半月	出雲市芦渡町		地点名 月・半月	出雲市芦渡町	
	本年	平年		本年	平年		本年	平年
4.1	0	0.0	6.1	0	0.6	8.1	0	16.9
2	0	0.0	2	0	1.5	2	0	12.5
3	0	0.0	3	0	5.0	3	0	8.3
4	0	0.0	4	4	3.5	4	0	6.4
5	0	0.0	5	20	6.5	5	0	6.4
6	0	0.0	6	31	11.6	6	0	3.1
5.1	0	0.0	7.1	22	17.8	9.1	2	5.4
2	0	0.0	2	3	23.0	2	0	2.9
3	0	0.1	3	1	19.0	3	0	1.6
4	0	0.5	4	3	19.3	4	0	0.6
5	0	0.8	5	3	27.5	5	0	0.5
6	0	1.1	6	1	24.1	6	0	2.6
						総計	90	229.1

(2) 巡回による調査

① 6月27～28日調査 (畦畔・雑草地など)

	すくい取り虫数 (20回振り・成幼虫)							合計
	圃場数	ホソハリ	シラホシ	トゲシラホシ	クモヘリ	アカスジ	アカヒゲ	
平均	46	0.4	0.0	0.2	0.3	8.5	1.3	10.7
採取圃場率		17.4%	0.0%	8.7%	2.2%	60.9%	34.8%	80.4%

② 8月1～3日調査 (コシヒカリが出穂した圃場)

	すくい取り虫数 (20回振り・成幼虫)							合計
	圃場数	ホソハリ	シラホシ	トゲシラホシ	クモヘリ	アカスジ	アカヒゲ	
平均	46	0.9	0.0	0.2	0.4	1.2	0.0	2.9
採取圃場率		30.4%	0.0%	8.7%	21.7%	30.4%	2.2%	50.0%

15) ヒメトビウンカ

(1) 予察灯による成虫の誘殺状況

① 半月別誘殺表

地点 月・半月	出雲市芦渡町		地点 月・半月	出雲市芦渡町		地点 月・半月	出雲市芦渡町	
	本年	平年		本年	平年		本年	平年
4.1	0	0.0	6.1	0	0.0	8.1	0	0.3
2	0	0.0	2	0	0.0	2	0	0.1
3	0	0.0	3	0	0.0	3	0	0.0
4	0	0.0	4	0	0.1	4	0	0.3
5	0	0.0	5	0	0.0	5	0	0.1
6	0	0.0	6	0	0.0	6	0	0.2
5.1	0	0.0	7.1	0	0.1	9.1	0	0.1
2	0	0.0	2	0	0.2	2	0	0.1
3	0	0.0	3	0	0.0	3	0	0.0
4	0	0.0	4	0	0.0	4	0	0.1
5	0	0.1	5	0	0.0	5	0	0.0
6	0	0.0	6	0	0.3	6	0	0.0
総計							0	2.1

(2) 定点と巡回による調査

① 6月27～29日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	24	18	38	56
東部山間	6	0	7	7
西部平坦	16	41	271	312
西部山間	0	-	-	-
合計	46	59	316	375
平均		1.3	6.9	8.2
圃場率 (%)		37	32.6	52.2
成虫比				15.7

注) 調査方法：25株払い落とし（粘着板使用）

② 8月1～3日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	24	48	241	289
東部山間	6	5	34	39
西部平坦	16	40	214	254
西部山間	0	-	-	-
合計	46	93	489	582
平均		2.0	10.6	12.7
圃場率 (%)		60.9	87.0	91.3
成虫比				16.0

注) 調査方法：25株払い落とし（粘着板使用）

③ 8月29～31日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	14	6	31	37
東部山間	6	0	0	0
西部平坦	16	0	7	7
西部山間	0	-	-	-
合計	36	6	38	44
平均		0.2	1.1	1.2
圃場率 (%)		11.1	25.0	27.8
成虫比				13.6

注) 調査方法：25株払い落とし（粘着板使用）

16) フタオビコヤガ

(1) 定点と巡回による調査

調査日	6月27～29日		8月1～3日		8月29～31日	
	圃場数	被害株数	圃場数	被害株数	圃場数	被害株数
東部平坦	24	0	24	0	14	0
東部山間	6	0	6	0	6	0
西部平坦	16	0	16	0	16	0
西部山間	0	-	0	-	0	-
合計	46	0	46	0	36	0
平均		0		0		0
圃場率 (%)		0		0		0
被害株率 (%)		0		0		0

注) 調査方法：25株見取り調査

## (II) ムギ

### 1. ムギの生育状況

#### 1) 生育概況

播種は11月上旬から本格的に始まり、上中旬の降雨により作業がやや遅れた。播種作業がやや遅れたため、出芽や初期生育が遅れたほ場があったが、冬期間において降雨量が少なく気温が平年並みに推移したため、平年並みの生育で経過した。

出穂期は平年並みとなり、それ以降高温傾向で、また降雨量が少なく日照時間が確保できたため登熟が順調に進んだ。

収穫期も好天が続き、また梅雨入り（6月14日、平年より8日遅い）が遅かったため、収穫作業が順調に進んだ。

#### 2) 作柄及び検査概況

小麦と二条大麦については、作付面積がやや増え収量も平年を上回ったため、直近5年で最も多い収穫量となり、品質も概ね良好であった。

(農業技術センター技術普及部作成)

#### 3) 生育状況調査

○県予察圃場（出雲市芦渡町）

品種	3月10日	3月17日	
	草丈	茎数(100cm)	草丈
サチホゴールド	21.8 cm	153.3 本	52.3 cm
ミナミノカオリ	44.2	113.3	58.0

注) 播種日と出穂期

サチホゴールド：R3年11月6日、R4年3月29日

ミナミノカオリ：R3年11月2日、R4年4月12日

## 2. 病害虫に関する調査結果

### 1) さび病類、うどんこ病、斑葉病、雲形病、赤かび病

#### (1) 発病状況調査

##### ① 定点における調査

○県予察圃場（出雲市芦渡町）

品種	さび病類			うどんこ病		
	3月23日	4月21日	5月14日	3月23日	4月21日	5月14日
サチホゴールド	0 %	0 %	0 %	0 %	0 %	0 %
ミナミノカオリ	0	0	0	0	0	0

注) 表中の数字は発病茎率

雲形病、斑葉病、赤かび病の発生はみられなかった。



②巡回による調査

ア. オオムギ(二条)

調査 月日	調査 場所	調査 ほ場数	小さび病		うどんこ病		赤かび病	
			発生 ほ場率	発病 茎率	発生 ほ場率	発病 茎率	発生 ほ場率	発病 茎率
R4. 3. 25	出雲市	40	0 %	0 %	0 %	0 %	- %	- %
4. 21	出雲市	40	0	0	0	0	0	0
5. 11	出雲市	40	0	0	0	0	0	0

注) 黄さび病、斑葉病、雲形病の発生は認められなかった。

イ. オオムギ(六条)

調査 月日	調査 場所	調査 ほ場数	小さび病		うどんこ病		赤かび病	
			発生 ほ場率	発病 茎率	発生 ほ場率	発病 茎率	発生 ほ場率	発病 茎率
R4. 3. 25	出雲市	5	0 %	0 %	0 %	0 %	- %	- %
4. 20	出雲市	5	0	0	0	0	0	0
5. 11	出雲市	5	0	0	0	0	0	0

注) 黄さび病、斑葉病、雲形病の発生は認められなかった。

ウ. コムギ

調査 月日	調査 場所	調査 ほ場数	赤さび病		うどんこ病		赤かび病	
			発生 ほ場率	発病 茎率	発生 ほ場率	発病 茎率	発生 ほ場率	発病 茎率
R4. 3. 23	出雲市	27	0 %	0 %	0 %	0 %	- %	- %
3. 23	松江市	3	0	0	0	0	0	0
4. 21	出雲市	27	0	0	0	0	0	0
4. 21	松江市	3	0	0	0	0	0	0
5. 16	出雲市	27	0	0	0	0	3.7	0.1
5. 14	松江市	3	100	24.0	0	0	0	0

注) 黄さび病の発生は認められなかった。

### (Ⅲ) ダイズ

#### 1. ダイズの生育状況

##### 1) 生育概況

播種は6月上旬から本格的に始まり、7月上旬にかけて降雨量が少なく湿害を回避できたことから、出芽と初期生育が良好であった。8月上旬から順次開花期となったが、8月中下旬に適度な降雨量があり着莢が順調に、また9月以降も日照時間や降雨量が適度に確保され登熟が順調に進んだ。病害虫についても、生育や収量に影響を及ぼすものはなかった。収穫は11月上旬から本格的に始まり、好天に恵まれ順調に進んだ。収穫物については、カメムシ害や紫斑病が比較的少なく平年よりやや多い収量が見込まれた。

##### 2) 作柄及び検査概況

作付面積は804haで前年から21ha増加し、また収量も127kg/10a(平均収量対比108%)であり、直近5年で最も多い収穫量となった。品質面においても普通大豆の検査数量が増え、特定加工用大豆が減少する等、全体的に良好であった。

(農業技術センター技術普及部作成)

#### 2. 病害虫に関する調査結果

##### 1) アブラムシ類

(1) 黄色水盤による有翅虫の有殺状況

###### ① 半月別誘殺数

イチゴのアブラムシ類の項参照。

##### 2) ハスモンヨトウ

(1) フェロモントラップによる雄成虫の誘殺状況

キャベツのハスモンヨトウの項に掲載。

(2) 被害状況調査

###### ① 巡回による調査(出雲市斐川地区)

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	1a当り白変か所数
R4. 7. 28	10	0	0
8. 25	18	38.9	0.78
9. 30	21	38.1	0.38

注) 調査方法:調査ほ場の畦畔に立ち、目視で1aの白変葉を数えた。

###### ② 巡回による調査(益田市安富・横田地区)

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	1a当り白変か所数
R4. 7. 29	12	0	0
8. 18	16	37.5	0.38
8. 29	18	66.7	0.83
9. 15	10	60.0	0.80

注) 調査方法:調査ほ場の畦畔に立ち、目視で1aの白変葉を数えた。

### 3) カメムシ類

(1) フェロモントラップによる雄成虫の誘殺状況

①旬別誘殺数

○設置場所：出雲市芦渡町

ホソヘリカメムシフェロモン

月. 旬	ホソヘリカメムシ 頭	イチモンジカメムシ 頭	備考
7. 上	18	1	
中	10	1	
下	16	2	
8. 上	5	3	クモヘリ成虫1頭 クモヘリ成虫1頭
中	5	2	
下	2	0	
9. 上	2	0	クモヘリ成虫1頭
中	0	0	
下	3	0	
10. 上	2	1	
中	0	1	
下	3	0	
合計	66	11	

イチモンジカメムシフェロモン

月. 旬	ホソヘリカメムシ 頭	イチモンジカメムシ 頭	備考
7. 上	14	3	クモヘリ成虫1頭 クモヘリ成虫2頭
中	7	11	
下	7	5	
8. 上	1	2	クモヘリ成虫1頭
中	2	3	
下	5	3	
9. 上	0	1	
中	0	0	
下	2	1	
10. 上	1	0	
中	0	0	
下	0	1	
合計	39	30	

注) 農技センター内ダイズ圃場横に設置。トラップは富士フレイバー製乾式トラップ(商品名フェールドキャッチボックストラップ)を用い、各トラップは10m以上離れた。ルアーは6個を用い、約一ヶ月毎に交換した。誘殺数は3~10日毎に調べ、日割り計算後旬毎に整数でまとめた。端数が出る場合には前後の誘殺数から勘案して丸めた。

#### 4) その他の害虫類

##### (1) 寄生状況調査

##### ① 巡回による調査 (益田市安富・横田地区)

調査年月日	圃場No.	捕獲種、頭数
R4. 7. 29	1	ウワバ幼虫、ハスモン幼虫、オオタバコガ幼虫
	2	仔モンジカメムシ雌成虫3頭、ウワバ幼虫、
8. 18	1	チョウ目幼虫1頭
	2	チョウ目幼虫3頭
8. 29	1	チョウ目幼虫10頭、ハスモン幼虫1頭
	2	カメムシ幼虫1頭、チョウ目幼虫5頭、ハスモン幼虫1頭
	3	仔モンジカメムシ雌成虫1頭、チョウ目幼虫10頭、ハスモン幼虫1頭

注) 調査方法：直径 60cm の白布を株の生え際に斜めに立てかけ、連続した株を 7 月 29 日は 20 株、8 月 18、29 日は 10 株たたき、株上にいる虫を落とした。たたき回数は 3 回とした。

## II) 果樹

※圃場 No. は連番とはせず、過去の調査と比較しやすいように固有番号としている。

### (I) ナシ

#### 1. 病害虫に関する調査結果

##### 1) 黒斑病、黒星病

(1) 発病状況調査 (1 圃場 10 新梢の全葉について調査。4 月下旬、5 月上旬は幼果について 1 圃場 100 果実調査)

##### ① 定点における調査

地区予察圃場 (安来市中津町、二十世紀、慣行散布) 調査結果は圃場 NO.7 に記載。

##### ② 巡回による調査 (安来市、慣行散布)

#### ア. 2022年4月28日調査

圃場 No.	品種	調査葉数	落葉数 (%)	調査生葉数	黒斑病		黒星病			
					発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)	発病度	調査果実数	発病果率 (%)
7	二十世紀	75	0	75	0	0	0	0	100	0
10	二十世紀	68	0	68	0	0	0	0	100	0
14	二十世紀	73	0	73	0	0	0	0	100	0
15	二十世紀	68	0	68	0	0	0	0	100	0
17	二十世紀	69	0	69	0	0	0	0	100	0
18	幸水	68	0	68	未調査	未調査	0	0	100	0
19	二十世紀	78	0	78	0	0	0	0	100	0
20	幸水	89	0	89	未調査	未調査	0	0	100	0
21	幸水	63	0	63	未調査	未調査	0	0	100	0
22	二十世紀	79	0	79	0	0	0	0	100	0
23	幸水	73	0	73	未調査	未調査	0	0	100	0
平均		73	0	73	0	0	0	0	100	0

#### イ. 2022年5月10日調査

圃場 No.	品種	調査葉数	落葉数 (%)	調査生葉数	黒斑病		黒星病			
					発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)	発病度	調査果実数	発病果率 (%)
7	二十世紀	93	0	93	0	0	0	0	100	0
10	二十世紀	89	0	89	0	0	0	0	100	0
14	二十世紀	107	0	107	0.9	0.2	0	0	100	0
15	二十世紀	101	0	101	0	0	0	0	100	0
17	二十世紀	89	0	89	0	0	0	0	100	0
19	二十世紀	115	0	115	0	0	0	0	100	0
20	幸水	108	0	108	未調査	未調査	0	0	100	0
22	二十世紀	97	0	97	1.0	0.3	0	0	100	0
23	幸水	85	0	85	未調査	未調査	0	0	100	0
平均		98	0	98	0.3	0.1	0	0	100	0

ウ. 2022年5月27日調査

圃場 No.	品種	調査 葉数	落葉数 (%)	調査 生葉数	黒斑病		黒星病	
					発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)	発病度
7	二十世紀	137	0	137	0	0	0	0
10	二十世紀	134	0	134	0	0	0	0
14	二十世紀	121	0	121	0.8	0.2	0	0
15	二十世紀	127	0	127	0.8	0.2	0	0
17	二十世紀	133	0	133	0	0	0	0
19	二十世紀	152	0	152	0.7	0.2	0.7	0.2
20	幸水	118	0	118	未調査	未調査	0	0
22	二十世紀	129	0	129	3.9	1.0	0	0
23	幸水	112	0	112	未調査	未調査	0.9	0.2
平均		129	0	129	0.9	0.2	0.2	0.0

エ. 2022年6月28日調査

圃場 No.	品種	調査 葉数	落葉数 (%)	調査 生葉数	黒斑病		黒星病	
					発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)	発病度
7	二十世紀	220	0.9	218	4.6	1.4	0	0
10	二十世紀	185	0	185	4.9	1.2	0	0
14	二十世紀	181	0	181	10.5	3.6	0	0
15	二十世紀	191	0	191	6.3	2.1	0	0
17	二十世紀	192	0	192	3.6	0.9	0	0
18	幸水	174	0	174	未調査	未調査	1.1	0.3
19	二十世紀	234	0	234	11.1	2.9	0	0
20	幸水	171	0	171	未調査	未調査	0.6	0.1
21	幸水	198	0	198	未調査	未調査	0	0
22	二十世紀	207	0.5	206	6.8	1.7	0.5	0.1
23	幸水	112	0	112	未調査	未調査	0	0
平均		188	0.1	188	6.8	2.0	0.2	0.1

オ. 2022年8月1日調査

圃場 No.	品種	調査 葉数	落葉数 (%)	調査 生葉数	黒斑病		黒星病	
					発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)	発病度
7	二十世紀	220	9.1	200	8.5	2.3	0	0
10	二十世紀	173	0	173	8.1	3.2	0	0
14	二十世紀	197	0	197	7.1	2.4	0.5	0.1
15	二十世紀	189	0	189	20.6	6.9	1.6	0.4
17	二十世紀	187	0	187	8.0	2.7	0	0
19	二十世紀	221	0	221	23.1	8.4	0.9	0.2
20	幸水	177	1.1	175	未調査	未調査	0	0
22	二十世紀	218	0	218	4.1	1.0	0	0
23	幸水	146	0	146	未調査	未調査	2.1	0.5
平均		192	1.1	190	11.4	3.8	0.6	0.1

カ. 2022年9月1日調査

圃場 No.	品種	調査 葉数	落葉数 (%)	調査 生葉数	黒斑病		黒星病	
					発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)	発病度
7	二十世紀	207	23.2	159	6.3	1.6	0	0
10	二十世紀	173	0	173	10.4	4.5	0.6	0.1
14	二十世紀	190	0	190	6.3	3.0	0	0
15	二十世紀	174	0	174	35.6	12.1	0	0
17	二十世紀	169	1.2	167	15.6	5.1	0.6	0.1
19	二十世紀	218	0	218	23.9	9.2	1.8	0.5
20	幸水	140	1.4	138	未調査	未調査	0	0
22	二十世紀	201	0.5	200	6.5	1.6	0	0
23	幸水	154	0.6	153	未調査	未調査	2.6	0.7
平均		180	3.0	175	14.9	5.3	0.6	0.2

## 2) ナシヒメシンクイ

### (1) 予察灯による成虫の誘殺状況

#### ① 半旬別誘殺表

月. 半旬	県予察圃場(出雲市芦渡町)				地区予察圃場(安来市中津町)	
	水銀灯(100W)		フェロモントラップ		フェロモントラップ	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4. 1	0	0.0	1	1.6	0	0.0
2	0	0.0	17	0.6	0	0.9
3	0	0.0	19	1.9	0	0.5
4	0	0.0	6	4.9	0	6.8
5	0	0.0	12	4.4	0	17.9
6	0	0.0	6	6.4	3	16.7
5. 1	0	0.0	15	5.4	2	16.4
2	0	0.0	4	4.2	10	22.2
3	0	0.0	0	3.8	0	1.7
4	0	0.0	3	1.9	0	7.5
5	0	0.0	1	0.4	0	14.2
6	0	0.0	2	1.5	0	6.8
6. 1	0	0.0	4	0.9	11	12.8
2	0	0.0	10	6.6	0	9.8
3	0	0.0	9	3.5	0	18.2
4	0	0.0	10	1.7	12	16.4
5	0	0.0	4	0.8	0	11.2
6	0	0.0	1	0.9	3	26.5
7. 1	0	0.0	3	0.9	2	8.0
2	0	0.0	12	1.5	7	12.8
3	0	0.0	17	1.0	3	10.9
4	0	0.0	11	4.4	0	12.8
5	0	0.0	9	4.4	14	14.9
6	0	0.0	3	2.3	6	20.1
8. 1	0	0.0	3	0.7	0	7.2
2	0	0.0	3	2.6	2	17.2
3	0	0.0	5	2.1	0	6.1
4	0	0.0	5	0.8	3	21.6
5	0	0.0	9	0.6	4	10.9
6	0	0.0	5	0.5	3	12.6
9. 1	0	0.0	4	1.7	0	1.3
2	0	0.1	5	2.2	0	7.0
3	0	0.0	3	2.0	0	2.5
4	0	0.0	3	0.4	0	1.8
5	0	0.0	1	0.1	0	1.7
6	0	0.0	0	0.0	0	0.7
10. 1	0	0.0	3	0.0	0	0.0
2	0	0.0	2	0.0	0	0.0
3	0	0.0	1	0.0	0	0.0
4	0	0.0	2	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	0	0.1	233	79.6	85	376.6



### 3) ナシオオシンクイガ

#### (1) 予察灯による成虫の誘殺状況

月. 半旬	県予察圃場(出雲市芦渡町)		月. 半旬	地区予察圃場(安来市中津町)	
	本年	平年		本年	平年
4. 1	0	0.0	8. 1	0	0.0
2	0	0.0	2	0	0.0
3	0	0.0	3	0	0.0
4	0	0.0	4	0	0.0
5	0	0.0	5	0	0.0
6	0	0.0	6	0	0.0
5. 1	0	0.0	9. 1	0	0.0
2	0	0.0	2	0	0.0
3	0	0.0	3	0	0.0
4	0	0.0	4	0	0.0
5	0	0.0	5	0	0.0
6	0	0.0	6	0	0.0
6. 1	0	0.0	10. 1	0	0.0
2	0	0.0	2	0	0.0
3	0	0.0	3	0	0.0
4	0	0.0	4	0	0.0
5	0	0.0	5	0	0.0
6	0	0.0	6	0	0.0
7. 1	0	0.0	合計	0	0.0
2	0	0.0			
3	0	0.0			
4	0	0.0			
5	0	0.0			
6	0	0.0			

### 4) モモシンクイガ

#### (1) フェロモントラップによる雄成虫の誘殺状況

##### ①半旬別誘殺表(モモシンクイガ)

月. 半旬	県予察圃場 (出雲市芦渡町)		地区予察圃場 (安来市中津町)		月. 半旬	県予察圃場 (出雲市芦渡町)		地区予察圃場 (安来市中津町)	
	本年	平年	本年	平年		本年	平年	本年	平年
5. 1	0	0.0	0	0.0	8. 1	0	0.0	5	22.7
2	0	0.0	0	0.0	2	0	0.0	0	14.6
3	0	0.0	0	0.0	3	0	0.0	0	8.4
4	0	0.0	0	0.0	4	0	0.0	0	9.7
5	0	0.0	0	0.0	5	0	0.0	4	8.1
6	0	0.0	0	0.0	6	0	0.0	4	13.7
6. 1	0	0.0	0	0.0	9. 1	0	0.0	3	12.0
2	0	0.0	0	0.0	2	0	0.0	2	8.9
3	0	0.0	0	0.0	3	0	0.0	12	19.4
4	0	0.0	0	0.0	4	0	0.0	7	10.1
5	0	0.0	0	0.0	5	0	0.0	3	17.8
6	0	0.0	0	1.9	6	0	0.0	6	9.4
7. 1	0	0.0	3	10.2	10. 1	0	0.0	0	1.1
2	0	0.0	3	18.9	2	0	0.0	0	1.3
3	0	0.0	6	16.4	3	0	0.0	0	1.6
4	0	0.0	8	10.8	4	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	11	20.3	5	0	0.0	0	0.9
6	0	0.0	10	20.2	6	0	0.0	0	0.0
					合計	0	0.0	87	258.4

## 5) チャノコカクモンハマキ

### (1) 成虫の誘殺状況

#### ① 半旬別誘殺表

月. 半旬	県予察圃場(出雲市芦渡町)				月. 半旬	県予察圃場(出雲市芦渡町)			
	水銀灯(100W)		フェロモントラップ			水銀灯(100W)		フェロモントラップ	
	本年	平年	本年	平年		本年	平年	本年	平年
4. 1	0	0.0	0	0.4	8. 1	3	0.0	12	0.8
2	0	0.0	2	0.5	2	0	0.7	5	2.7
3	0	0.0	2	1.4	3	0	0.6	5	1.7
4	0	0.0	0	3.9	4	0	0.8	2	2.5
5	0	0.1	5	5.1	5	1	0.1	5	3.6
6	0	0.0	1	4.8	6	2	0.7	3	2.5
5. 1	0	0.4	9	3.8	9. 1	4	0.7	9	3.1
2	1	0.6	3	6.4	2	1	1.0	5	5.8
3	0	0.8	5	4.4	3	3	1.0	19	3.1
4	3	1.1	4	2.8	4	3	0.1	30	5.5
5	1	0.8	0	2.4	5	1	0.5	33	3.5
6	0	0.3	2	1.3	6	0	0.1	24	0.5
6. 1	0	0.3	0	0.7	10. 1	0	0.3	27	0.0
2	0	0.8	1	1.3	2	0	0.0	9	0.0
3	0	0.6	0	1.0	3	0	0.1	9	0.0
4	0	1.0	5	4.1	4	0	0.3	22	0.0
5	2	0.8	5	1.8	5	0	0.0	10	0.0
6	1	0.4	17	1.7	6	0	0.0	5	0.9
7. 1	1	0.3	0	0.9	合計	27	17.1	312	94.1
2	0	0.6	6	2.1					
3	0	0.4	1	2.0					
4	0	0.1	2	2.0					
5	0	0.5	7	1.8					
6	0	0.2	1	1.3					

## 6) チャハマキ

### (1) 成虫の誘殺状況

#### ① 半旬別誘殺表

月. 半旬	県予察圃場(出雲市芦渡町)				月. 半旬	県予察圃場(出雲市芦渡町)			
	水銀灯(100W)		フェロモントラップ			水銀灯(100W)		フェロモントラップ	
	本年	平年	本年	平年		本年	平年	本年	平年
4. 1	0	0.0	0	0.0	8. 1	0	0.2	0	0.0
2	0	0.0	0	0.1	2	3	0.5	1	0.8
3	0	0.0	2	1.0	3	0	0.4	2	1.1
4	0	0.0	0	2.7	4	0	0.7	1	0.2
5	0	0.0	0	2.5	5	1	1.0	2	0.0
6	0	0.0	0	1.9	6	0	1.3	0	0.0
5. 1	3	0.0	1	1.5	9. 1	0	0.1	1	1.7
2	2	0.2	0	1.7	2	0	0.1	0	1.4
3	1	0.5	0	2.0	3	5	0.7	0	1.3
4	5	0.7	0	0.1	4	0	0.4	3	0.7
5	0	0.4	0	1.7	5	0	0.3	2	1.3
6	3	0.6	2	0.6	6	0	0.3	1	1.2
6. 1	3	0.5	1	1.0	10. 1	0	0.2	4	0.2
2	1	0.3	1	1.1	2	0	0.0	5	0.4
3	2	0.6	1	0.7	3	0	0.0	5	0.3
4	0	0.7	0	0.2	4	0	0.0	10	0.0
5	0	1.1	0	0.7	5	0	0.0	5	0.0
6	0	0.5	0	1.2	6	0	0.0	9	0.0
7. 1	0	0.4	1	0.8	合計	34	15.2	61	39.0
2	0	0.2	0	1.4					
3	3	1.4	1	1.1					
4	0	0.0	0	2.7					
5	0	0.5	0	1.1					
6	2	0.4	0	0.6					

## 7) ハダニ類、カイガラムシ類

### (1) 越冬バンドトラップによる越冬密度調査

調査場所	No.	カンザワハダニ		クワコナカイガラムシ	
		本年	平年	本年	平年
中津町地区圃	1	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.2	0	0.0
島田町	1	0	1.8	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0
平均		0	0.3	0	0.0

注) 1. トラップは幅20cmのクラフト紙を太枝に巻き付けた。  
2. 1圃3個設置。トラップ当たり虫数

### (2) 発生状況調査

#### ①巡回による調査 (特定圃場)

調査月日	4月下旬	5月下旬		6月下旬		7月下旬		8月下旬	
圃場 No.	花叢率	寄生 葉率	寄生 虫数	寄生 葉率	寄生 虫数	寄生 葉率	寄生 虫数	寄生 葉率	寄生 虫数
	%	%		%		%		%	
地区予察圃場 1	2.0	2.0	2.5	12.0	27.5	0.0	0.0	0.0	0.0
2	4.0	4.0	5.0	30.0	85.0	20.0	37.5	42.0	52.5
島田 1	0.0	0.0	0.0	14.0	17.5	2.0	2.5	16.0	20.0
2	4.0	0.0	0.0	6.0	7.5	4.0	5.0	8.0	10.0
3	0.0	0.0	0.0	2.0	2.5	18.0	22.5	48.0	75.0
4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.0	17.5
5	-	0.0	0.0	26.0	32.5	2.0	2.5	14.0	17.5
6	-	2.0	2.5	18.0	55.0	8.0	10.0	8.0	10.0
平均	1.7	1.0	1.3	13.5	28.4	6.8	10.0	18.8	25.3

注) 1. 50花叢・50葉調査  
2. 寄生雌成虫数は寄生程度別葉数から算出

寄生程度

A: 1~5 頭/葉

虫数=2.5A+7.5B+15C+25D

B: 6~10

C: 11~20

D: 21~

E: 0

## 8) アブラムシ類

### (1) 発生状況調査

#### ①巡回による調査(特定圃場)

調査月日		4月下旬		5月下旬		6月下旬	
圃場	No.	寄生 梢率	寄生度	寄生 梢率	寄生度	寄生 梢率	寄生度
		%		%		%	
地区予察圃場	1	0.0	0.0	6.0	3.0	2.0	1.0
	2	0.0	0.0	4.0	1.0	2.0	0.5
島田	1	2.0	0.5	16.0	8.5	2.0	0.5
	2	2.0	0.5	2.0	2.0	2.0	0.5
	3	0.0	0.0	2.0	2.0	0.0	0.0
	4	0.0	0.0	4.0	1.0	2.0	0.5
	5	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0
	6	-	-	8.0	5.0	0.0	0.0
平均		0.7	0.2	5.3	2.8	1.3	0.4

注) 1. 圃場当たり50梢調査

$$2. \text{寄生度} = \frac{4A+3B+2C+D}{4 \times N(\text{調査新梢数})} \times 100$$

A: 先端4葉全てに寄生

B: " 3葉に寄生

C: " 2葉 "

D: " 1葉 "

E: 寄生なし

## (II) カキ

### 1. 病害虫に関する調査結果

#### 1) 炭疽病

##### (1) 発病状況調査

(6～8月に1圃場1樹50新梢、7～10月に1圃場1樹50果実について調査)

##### ① 定点における調査

地区予察圃場(出雲市東福町、富有、慣行散布)調査結果は圃場NO.1に記載

##### ② 巡回による調査(出雲市、慣行散布)

#### 2) うどんこ病、円星落葉病、角斑落葉病、灰色かび病

(1) 発病状況調査(1圃場1樹10新梢の全葉について調査。灰色かび病については7月に1圃場1樹50果実について調査)

##### ① 定点における調査

地区予察圃場(出雲市東福町、富有、慣行散布)調査結果は圃場NO.1に記載

##### ② 巡回による調査(出雲市、慣行散布)

#### ア. 2022年4月27日調査

圃場 No.	品種	調査葉数	落葉数 (%)	調査生葉数	灰色かび病発病葉率 (%)
1	富有	73	0	73	0
6	西条	50	0	50	0
8	西条	66	0	66	0
10	富有	80	0	80	0
11	富有	68	0	68	0
12	富有	73	0	73	0
13	富有	83	0	83	0
14	富有	66	0	66	0
平均		70	0	70	0

#### イ. 2022年5月30日調査

圃場 No.	品種	調査葉数	落葉数 (%)	調査生葉数	うどんこ病		灰色かび病
					発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)
1	富有	92	0	92	0	0	0
6	西条	78	5.1	74	0	0	1.4
8	西条	77	0	77	0	0	0
10	富有	95	0	95	0	0	0
11	富有	78	0	78	0	0	0
12	富有	118	0	118	0	0	0
13	富有	88	0	88	0	0	0
14	富有	99	0	99	0	0	0
平均		91	0.6	90	0	0	0.2

ウ. 2022年6月29日調査

圃場 No.	品種	調査 葉数	落葉数 (%)	調査 生葉数	炭疽病		うどんこ病		灰色かび病	
					発病枝率 (%)	発病果率 (%)	発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)	発病果率 (%)
1	富有	88	0	88	0		1.1	0.3	0	
6	西条	72	0	72	0		0	0	0	
8	西条	82	0	82	0		0	0	0	
10	富有	95	0	95	0		0	0	0	
11	富有	117	0	117	0		0	0	0	
12	富有	95	0	95	0		0	0	0	
13	富有	115	0	115	0		0	0	0	
14	富有	85	0	85	0		0	0	0	
平均		94	0	94	0		0.1	0.0	0	

エ. 2022年7月29日調査

圃場 No.	品種	調査 葉数	落葉数 (%)	調査 生葉数	炭疽病		うどんこ病		灰色かび病	
					発病枝率 (%)	発病果率 (%)	発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)	発病果率 (%)
1	富有	95	0	95	0	0	0	0	0	0
6	西条	75	1.3	74	0	0	1.4	0.3	0	0
8	西条	92	0	92	0	0	0	0	0	0
10	富有	93	0	93	0	0	0	0	0	0
11	富有	111	0	111	0	0	0	0	0	0
12	富有	100	2.0	98	0	0	1.0	0.3	0	0
13	富有	112	0	112	0	0	1.8	0.4	0	0
14	富有	86	0	86	0	0	0	0	0	0
平均		96	0.4	95	0	0	0.5	0.1	0	0

オ. 2022年8月31日調査

圃場 No.	品種	調査 葉数	落葉数 (%)	調査 生葉数	炭疽病		うどんこ病	
					発病枝率 (%)	発病果率 (%)	発病葉率 (%)	発病度
1	富有	81	0	81	0	0	1.2	0.3
6	西条	80	0	80	0	0	7.5	2.5
8	西条	86	0	86	0	0	0	0
10	富有	84	0	84	0	0	0	0
11	富有	97	0	97	0	0	2.1	0.5
12	富有	96	0	96	0	0	2.1	1.0
13	富有	106	0	106	0	0	0.9	0.2
14	富有	78	0	78	0	0	0	0
平均		89	0	89	0	0	1.7	0.6

カ. 2022年9月29日調査

圃場 No.	品種	調査 葉数	落葉数 (%)	調査 生葉数	炭疽病		うどんこ病		円星落葉病		角斑落葉病	
					発病果率 (%)	発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)	発病度	
1	富有	85	0	85	0	21.2	5.9	0	0	0	0	
6	西条	79	2.5	77	0	14.3	3.9	0	0	0	0	
8	西条	75	4.0	72	0	2.8	0.7	0	0	1.4	0.3	
10	富有	81	3.7	78	0	0	0	0	0	0	0	
11	富有	97	0	97	0	1.0	0.3	0	0	0	0	
12	富有	101	0	101	0	9.9	4.0	0	0	0	0	
13	富有	95	0	95	0	5.3	2.1	0	0	0	0	
14	富有	91	0	91	0	0	0	0	0	0	0	
平均		88	1.3	87	0	6.8	2.1	0	0	0.2	0.0	

キ. 2022年10月31日調査

圃場 No.	品種	調査 葉数	落葉数 (%)	調査 生葉数	炭疽病		うどんこ病		円星落葉病		角斑落葉病	
					発病果率 (%)	発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)	発病度	
1	富有	82	0	82	0	43.9	12.2	1.2	0.3	0	0	
6	西条	69	2.9	67	収獲済み	7.5	1.9	0	0	0	0	
8	西条	76	3.9	73	収獲済み	8.2	2.7	11.0	2.7	19.2	4.8	
10	富有	89	5.6	84	0	4.8	1.2	3.6	0.9	0	0	
11	富有	100	3.0	97	0	0	0	0	0	0	0	
12	富有	98	0	98	0	25.5	7.4	0	0	0	0	
13	富有	94	0	94	0	7.4	2.1	0	0	0	0	
14	富有	65	0	65	0	0	0.0	0	0	0	0	
平均		84	1.6	83	0	12.2	3.4	2.0	0.5	0	0.6	

### 3) カキミガ

#### (1) 予察灯による成虫の誘殺状況

県予察圃場（出雲市芦渡町）での誘殺は認めなかった。

#### (2) 被害の発消長調査

平田市的一般圃場5園において5月下旬～8月下旬に5回各園100果について調査を行ったが被害は認めなかった。

### 4) カメムシ類

#### (1) 予察灯による成虫の誘殺状況（水銀灯 100W）

○県予察圃場（出雲市芦渡町）

月. 半旬	チャバネアオカメムシ		クサギカメムシ		ツヤアオカメムシ		アオクサカメムシ	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	1	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	4	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	3	0.0	0	0.0
5. 1	0	0.0	0	0.0	5	0.5	0	0.0
2	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	25.7	0	1.7	0	2.0	0	0.1
4	0	36.7	0	8.8	0	7.6	0	0.0
5	29	6.2	2	0.2	0	3.7	0	0.0
6	10	6.0	0	0.9	23	2.0	1	0.0
6. 1	6	4.8	0	0.2	2	2.3	0	0.0
2	1	4.0	0	0.0	0	0.5	0	0.0
3	2	8.9	0	0.9	3	12.1	0	0.0
4	0	6.6	0	0.0	0	1.2	0	0.0
5	74	5.9	19	0.3	70	3.5	0	0.0
6	248	21.2	19	3.6	75	18.9	0	0.0
7. 1	33	43.2	10	7.8	13	6.4	0	0.0
2	47	61.3	58	14.4	19	17.9	0	0.3
3	110	41.8	44	22.0	16	14.2	0	0.6
4	150	66.1	49	42.4	10	11.1	0	0.3
5	47	52.7	15	49.6	1	20.4	0	0.4
6	272	95.4	123	83.5	19	25.1	0	0.8
8. 1	260	106.0	107	63.4	41	21.1	0	0.3
2	83	119.7	34	53.7	19	24.5	0	0.4
3	198	147.1	61	57.7	21	52.4	0	0.0
4	64	179.9	16	59.7	3	66.2	0	0.2
5	171	224.1	84	53.4	46	47.9	1	0.2
6	62	219.4	2	45.3	4	44.0	0	0.0
9. 1	46	45.4	13	5.1	11	10.1	0	0.1
2	30	48.3	2	2.0	1	5.2	0	0.0
3	32	61.1	1	2.3	0	16.9	0	0.0
4	53	28.3	2	0.8	1	11.6	0	0.1
5	12	15.6	0	0.2	2	7.4	0	0.0
6	5	11.4	1	0.4	6	6.8	0	0.0
10. 1	4	0.3	0	0.0	5	5.7	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	11	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	2049	1693.2	662	580.3	435	469.3	2	4.0



5) チャノコカクモンハマキ

(1) 予察灯・フェロモントラップによる成虫の誘殺状況  
ナシのチャノコカクモンハマキの項に掲載

6) チャハマキ

(1) 予察灯・フェロモントラップによる成虫の誘殺状況  
ナシのチャハマキの項に掲載

7) カキクダアザミウマ

(1) 粘着トラップによる誘殺状況

○県予察圃場（出雲市芦渡町）

①越冬成虫の誘殺状況

月.日	誘殺数	月.日	誘殺数	月.日	誘殺数
4. 11	0	4. 21	0	5. 1	0
12	0	22	0	2	0
13	0	23	0	3	0
14	0	24	0	4	0
15	0	25	0	5	0
16	0	26	0	6	0
17	0	27	0	7	0
18	0	28	0	8	0
19	0	29	0	9	1
20	0	30	0	10	0
				合計	1

②第1世代成虫の誘殺状況

月.半旬	本年	平年	月.半旬	本年	平年	月.半旬	本年	平年
6. 1	0	0.0	7. 1	0	0.0	8. 1	0	0.0
2	1	1.0	2	1	0.0	2	0	0.0
3	0	3.0	3	0	0.0	3	0	0.0
4	1	1.0	4	0	0.0	4	0	0.0
5	3	2.0	5	0	0.0	5	0	0.0
6	1	2.0	6	0	0.0	6	0	0.0
						合計	7	9.0

## 8) フジコナカイガラムシ

(1) フェロモントラップによる誘殺状況 (一般圃場：出雲市東福町)

月. 半旬	誘殺数	月. 半旬	誘殺数	月. 半旬	誘殺数
3. 1	-	6. 1	2	9. 1	0
2	-	2	1	2	4
3	-	3	1	3	2
4	-	4	1	4	2
5	-	5	1	5	4
6	-	6	5	6	1
4. 1	0	7. 1	5	10. 1	0
2	0	2	2	2	0
3	0	3	1	3	0
4	0	4	3	4	0
5	0	5	2	5	0
6	13	6	2	6	0
5. 1	0	8. 1	0	11. 1	0
2	0	2	1	2	0
3	7	3	3	3	0
4	10	4	3	4	0
5	5	5	1	5	0
6	12	6	1	6	0

(2) 果実の被害状況

○一般圃場 (出雲市)

調査月日	調査果数	カメムシ		カキクダアザミウマ		コナカイガラムシ		ハマキムシ	
		被害果数	被害果率	被害*梢数	被害梢率	被害果数	被害果率	被害果数	被害果率
4. 29	-	-	-	0	0.0	0	0.0	-	-
5. 30	774	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6. 29	800	6	0.8	0	0.0	16	2.0	13	1.6
7. 12	800	15	1.9	0	0.0	6	0.8	6	0.8
7. 29	800	19	2.4	0	0.0	21	2.6	15	1.9
8. 31	800	17	2.1	0	0.0	25	3.1	9	1.1
9. 29	800	17	2.1	0	0.0	33	4.1	11	1.4

注) \* : 各園100新梢、計600新梢調査

(3) 定点における調査

①収穫果実の被害調査

○一般圃場 (出雲市)

調査月日	調査果数	カメムシ		カキクダアザミウマ		コナカイガラムシ		ハマキムシ	
		被害果数	被害果率(%)	被害果数	被害梢率(%)	被害果数	被害果率(%)	被害果数	被害果率(%)
11, 4	600	9	1.5	0	0.0	103	17.2	71	11.8

(Ⅲ) クリ

1. 病害虫に関する調査結果

1) モモノゴマダラノメイガ

(1) 予察灯による成虫の誘殺状況

○県予察圃場（出雲市芦渡町）

月. 半旬	本年	平年	月. 半旬	本年	平年
5. 1	0	0.0	8. 1	0	0.2
2	0	0.0	2	1	0.4
3	0	0.0	3	0	0.0
4	0	0.0	4	0	0.1
5	0	0.0	5	0	0.0
6	0	0.0	6	1	0.5
6. 1	0	0.0	9. 1	0	0.1
2	0	0.0	2	0	0.0
3	0	0.0	3	0	0.1
4	0	0.0	4	0	0.3
5	0	0.0	5	0	0.4
6	0	0.0	6	0	0.1
7. 1	0	0.0	10. 1	0	0.1
2	0	0.3	2	0	0.1
3	0	0.3	3	0	0.0
4	1	0.0	4	0	0.0
5	0	0.7	5	0	0.0
6	0	0.2	6	0	0.0
			合計	3	3.9

2) クスサン

(1) 予察灯による成虫の誘殺状況

①半旬別誘殺表

○県予察圃場（出雲市芦渡町）

月. 半旬	本年	平年	月. 半旬	本年	平年	月. 半旬	本年	平年	
8. 1	0	0.0	9. 1	0	0.2	10. 1	0	11.8	
2	0	0.0	2	0	0.9	2	0	9.1	
3	0	0.0	3	0	1.5	3	0	2.7	
4	0	0.0	4	0	0.9	4	0	0.1	
5	0	0.2	5	2	3.0	5	0	0.0	
6	0	0.0	6	3	4.5	6	0	0.0	
							合計	5	34.9

### Ⅲ) 野菜

#### (I) キャベツ

##### 1. 病害虫に関する調査結果

###### 1) 黒腐病

###### (1) 発病状況調査

###### ①巡回による調査

○調査場所：出雲市、松江市

調査年月日	作型	調査圃場数	黒腐病	
			発生圃場率(%)	発生株率(%)
2022年9月30日	夏秋	5	20.0	0.4
	冬	16	0	0
11月25日	夏秋	3	33.3	7.3
	冬	9	33.3	0.9

注) 調査株数：50 株/圃場。

###### 2) 菌核病

###### (1) 発病状況調査

###### ①巡回による調査

○調査場所：出雲市、松江市

調査年月日	作型	調査圃場数	菌核病	
			発生圃場率(%)	発生株率(%)
2022年9月30日	夏秋	5	0	0
	冬	16	0	0
11月25日	夏秋	3	0	0
	冬	9	22.2	0.9

注) 調査株数：50 株/圃場。

###### 3) モンシロチョウ

###### (1) 発生状況調査

###### ①巡回による調査

ア. 夏秋キャベツ

○松江地区

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)	10株当り虫数
2022年8月25日	9	22.2	2.2	0.22
10月 3日	10	0	0	0

注) 調査株数：10 株/圃場

#### 4) コナガ

##### (1) 発生状況調査

###### ①巡回による調査

###### ア. 夏秋キャベツ

###### ○松江地区

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)	10株当り虫数
2022年8月25日	9	22.2	3.3	0.44
10月3日	10	0	0	0

注) 調査株数: 10株/圃場

#### 5) ヨトウガ

##### (1) 発生状況調査

###### ①巡回による調査

###### ア. 夏秋キャベツ

###### ○松江地区

モンシロチョウと同時に調査を行ったが、寄生は認められなかった。

#### 6) ウワバ類

##### (1) 発生状況調査

###### ①巡回による調査

###### ア. 夏秋キャベツ

###### ○松江地区

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)	10株当り虫数
2022年 8月25日	9	55.6	6.7	0.67
10月3日	10	0	0	0

注) 調査株数: 10株/圃場

#### 7) アブラムシ類

##### (1) 黄色水盤による有翅虫の有殺状況

###### ①半旬別誘殺数

イチゴのアブラムシ類の項参照。

##### (2) 発生状況調査

###### ②巡回による調査

###### ア. 夏秋キャベツ

###### ○松江地区

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)	10株当り虫数
2022年 8月25日	9	0	0	0
10月3日	10	10.0	1.0	0.10

注) 調査株数: 10株/圃場、ニダ<sup>g</sup>イオンアブラムシが寄生していた。

## 8) ハスモンヨトウ

### (1) フェロモントラップによる雄成虫の誘殺状況

#### ① 半旬別誘殺数

○設置場所：出雲市芦渡町

月. 半旬	本年	*平年	月. 半旬	本年	*平年	月. 半旬	本年	*平年	
4. 1	0	0.5	6. 3	12	52.7	8. 5	43	48.0	
2	0	0.1	4	4	52.0	6	84	80.8	
3	0	0.6	5	33	48.5	9. 1	158	133.5	
4	0	1.2	6	54	51.7	2	50	105.3	
5	0	0.2	7. 1	15	80.3	3	21	102.1	
6	0	0.3	2	14	76.5	4	91	91.0	
5. 1	2	0.7	3	46	54.2	5	84	55.1	
2	4	2.5	4	51	46.1	6	60	35.0	
3	4	5.5	5	44	22.8	10. 1	60	51.7	
4	3	13.5	6	20	21.2	2	87	54.0	
5	3	16.4	8. 1	23	19.8	3	98	64.6	
6	0	9.8	2	16	53.3	4	55	41.5	
6. 1	6	10.0	3	87	71.6	5	35	32.6	
2	4	20.0	4	108	44.5	6	56	39.1	
注) 農技センター屋上設置。*：平成24年～令和3年の平均値							総計	1535	1710.8

○設置場所：益田市飯田町

月. 半旬	本年	*平年	月. 半旬	本年	*平年	月. 半旬	本年	*平年	
5. 1	10	4.2	7. 1	16	70.8	9. 1	184	121.4	
2	14	3.2	2	11	41.0	2	142	146.6	
3	4	10.9	3	47	27.8	3	21	104.8	
4	3	19.9	4	18	26.1	4	147	196.1	
5	3	28.1	5	44	8.6	5	197	127.9	
6	0	21.0	6	32	29.8	6	112	103.9	
6. 1	4	11.9	8. 1	6	22.6	10. 1	284	143.9	
2	4	11.1	2	3	36.1	2	273	132.9	
3	11	14.2	3	13	57.1	3	120	122.7	
4	3	31.0	4	155	46.5	4	99	90.7	
5	5	47.2	5	43	51.8	5	116	86.1	
6	10	61.5	6	104	145.9	6	155	140.0	
注) *：平成24年～令和3年の平均値							総計	2413	2345.3

### (2) 発生状況調査

#### ① 巡回による調査

ア. 夏秋キャベツ

○松江地区

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)	10株当り虫数
2022年 8月25日	9	11.1	1.1	0.11
10月 3日	10	10.0	1.0	0.10

注) 調査株数：10株/圃場

## 9) シロイチモジヨトウ

### (1) フェロモントラップによる雄成虫の誘殺状況

#### ① 半旬別誘殺数

○設置場所：出雲市芦渡町

月. 半旬	本年	* 平年	月. 半旬	本年	* 平年	月. 半旬	本年	* 平年
4. 1	0	0.0	6. 3	9	1.0	8. 5	17	4.0
2	0	0.0	4	1	0.2	6	7	11.2
3	0	0.0	5	0	2.7	9. 1	13	10.6
4	0	0.0	6	1	2.4	2	5	12.9
5	0	0.0	7. 1	2	0.4	3	5	8.3
6	0	0.0	2	14	0.4	4	21	2.8
5. 1	0	0.0	3	29	1.0	5	13	6.5
2	0	0.0	4	19	1.4	6	3	3.1
3	0	0.6	5	22	1.2	10. 1	10	8.6
4	0	4.1	6	9	0.9	2	3	1.6
5	0	2.0	8. 1	10	1.0	3	2	1.0
6	3	1.0	2	25	4.0	4	3	0.4
6. 1	0	0.0	3	64	2.3	5	0	0.3
2	0	0.1	4	41	2.1	6	0	0.1
注) 農技センター屋上設置。*: 平成24年～令和3年の平均値						総 計	351	100.2

○設置場所：益田市飯田町

月. 半旬	本年	* 平年	月. 半旬	本年	* 平年	月. 半旬	本年	* 平年
5. 1	0	0.0	7. 1	6	4.7	9. 1	20	38.3
2	0	0.1	2	38	3.5	2	10	29.7
3	0	0.7	3	91	5.1	3	46	38.0
4	0	2.8	4	38	4.0	4	22	34.9
5	0	4.5	5	39	1.6	5	41	43.9
6	5	2.6	6	21	4.3	6	27	19.7
6. 1	3	1.3	8. 1	4	7.7	10. 1	50	39.5
2	5	1.2	2	30	6.1	2	35	18.7
3	8	1.7	3	36	11.7	3	2	16.3
4	0	2.5	4	182	13.2	4	24	15.1
5	0	1.8	5	50	11.6	5	15	9.0
6	3	6.3	6	13	29.2	6	8	4.3
注) *: 平成24年～令和3年の平均値						総 計	872	435.8

### (2) 発生状況調査

#### ① 巡回による調査

ア. 夏秋キャベツ

○松江地区

モンシロチョウと同時に調査を行ったが、寄生は認められなかった。

## 10) オオタバコガ

### (1) フェロモントラップによる雄成虫の誘殺状況

#### ①半旬別誘殺数

○設置場所：出雲市芦渡町

月. 半旬	本年	*平年	月. 半旬	本年	*平年	月. 半旬	本年	*平年
4. 1	0	0.0	6. 3	0	0.0	8. 5	0	0.0
2	0	0.0	4	0	0.0	6	0	0.3
3	0	0.0	5	0	0.0	9. 1	0	0.0
4	0	0.0	6	0	0.0	2	0	1.1
5	0	0.2	7. 1	0	0.0	3	0	0.2
6	0	0.0	2	0	0.0	4	0	0.1
5. 1	0	0.0	3	0	0.0	5	0	0.9
2	0	0.0	4	0	0.0	6	0	0.0
3	0	0.0	5	0	0.0	10. 1	1	0.3
4	0	0.0	6	0	0.0	2	2	0.2
5	0	0.0	8. 1	0	0.0	3	1	0.9
6	0	0.0	2	0	0.0	4	0	0.3
6. 1	0	0.0	3	0	0.1	5	1	0.1
2	0	0.0	4	0	0.0	6	0	0.5
注) 農技センター屋上設置。*：平成24年～令和3年の平均値						総計	5	5.2

○設置場所：益田市飯田町

月. 半旬	本年	*平年	月. 半旬	本年	*平年	月. 半旬	本年	*平年
5. 1	0	0.2	7. 1	0	0.0	9. 1	0	0.1
2	0	0.1	2	0	0.0	2	0	0.1
3	0	0.1	3	0	0.1	3	0	0.2
4	0	0.1	4	0	0.2	4	2	0.0
5	0	0.0	5	0	0.0	5	0	0.1
6	0	0.1	6	0	0.0	6	3	0.3
6. 1	0	0.1	8. 1	0	0.0	10. 1	4	1.9
2	0	0.2	2	0	0.0	2	1	0.5
3	0	0.1	3	0	0.3	3	0	0.6
4	0	0.0	4	0	0.2	4	0	2.4
5	0	0.6	5	0	0.0	5	6	1.6
6	0	0.2	6	0	0.1	6	0	1.5
注) *：平成24年～令和3年の平均値						総計	16	12.0

### (2) 発生状況調査

#### ①巡回による調査

ア. 夏秋キャベツ

○松江地区

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)	10株当り虫数
2022年 8月25日	9	0	0	0
10月 3日	10	10.0	2.0	0.2

注) 調査株数：10株/圃場。



## 11) キスジノミハムシ

### (1) 発生状況調査

#### ①巡回による調査

##### ア. 夏秋キャベツ

##### ○松江地区

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)	10株当り虫数
2022年 8月25日	9	0	0	0
10月 3日	10	20.0	3.0	0.60

注) 調査株数：10 株/圃場

(Ⅱ) タマネギ

1. 病害虫に関する調査結果

1) ペト病

(1) 発生状況調査

①巡回による調査

○調査場所：出雲市

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	調査株数	発病株率(%)
2022年3月26日	30	23.3	762120	0.011
4月26日	28	25.0	8400	0.8
5月23日	25	52.0	7500	11.6

2) 白色疫病、ボトリチス属菌による葉枯症、腐敗病・軟腐病

(1) 発生状況調査

①巡回による調査

○調査場所：出雲市

調査年月日	調査圃場数	白色疫病		ボトリチス属菌による葉枯症		腐敗病・軟腐病	
		発生圃場率(%)	発病株率(%)	発生圃場率(%)	発病株率(%)	発生圃場率(%)	発病株率(%)
2022年3月26日	30	16.7	0.4	10	0.2	20	0.1
4月26日	28			21.4	0.3	64.3	1.9
5月23日	25			12	0.8	56	2.2

注) 調査株数：300株/圃場。

### (Ⅲ) イチゴ

#### 1. 病害虫に関する調査結果

##### 1) 灰色かび病

###### (1) 発病状況調査

###### ①巡回による調査

○調査場所：安来市

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	調査葉数	発病葉率 (%)	調査花梗数	発病花梗率 (%)	調査果実数	発病果率 (%)
2022年3月29日	8	37.5	8.5	3520	0.37	2975	0	2220	0.14
4月26日	8	25	2	3455	0.12	2110	0	1735	0.06
10月27日	8	0	0	1250	0	415	0		
11月28日	7	14.3	0.5	1720	0	1630	0	1610	0.1
2023年1月31日	6	66.7	10.7	1755	0.4	1760	0	1390	0.9

注) 調査株数：25～50 株/圃場。

##### 2) うどんこ病

###### (1) 発病状況調査

###### ①巡回による調査

○調査場所：安来市

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	調査葉数	発病葉率 (%)	調査花梗数	発病花梗率 (%)	調査果実数	発病果率 (%)
2022年3月29日	8	25	1.5	3520	0.03	2975	0	2220	0.09
4月26日	8	37.5	2	3455	0	2110	0	1735	0.23
6月27日	7	28.5	3.4	400	3				
7月27日	7	0	0	555	0				
8月29日	7	0	0	750	0				
10月27日	8	0	0	1250	0	415	0		
11月28日	7	14.3	0.5	1720	0	1630	0	1610	0.1
2023年1月31日	6	16.7	0.7	1755	0	1760	0	1390	0.1

注) 調査株数：25～50 株/圃場。

### 3) 炭疽病

#### (1) 発病状況調査

##### ①巡回による調査

○調査場所：安来市

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	調査株数	発病株率(%)
2022年6月27日	7	28.6	3500	0.1
7月27日	7	57.1	3500	1.4
8月29日	7	57.1	3500	1.5
10月27日	8	37.5	4000	0.7
11月28日	7	28.6	3500	0.1

注) 調査株数：500株/圃場。

### 4) アブラムシ類

#### (1) 黄色水盤による有翅虫の誘殺状況

○設置場所：出雲市芦渡町

##### ①半旬別誘殺数

月. 半旬	本年	*平年	月. 半旬	本年	*平年	月. 半旬	本年	*平年
4. 1	2	2.2	7. 1	5	31.9	10. 1	1	27.0
2	4	3.7	2	25	12.9	2	4	13.7
3	18	5.8	3	23	16.5	3	6	12.9
4	11	12.0	4	19	10.5	4	10	8.6
5	38	11.9	5	23	8.7	5	20	12.0
6	27	29.3	6	22	8.9	6	11	19.2
5. 1	26	35.7	8. 1	5	5.4	総計	960	986.4
2	33	34.2	2	13	7.8			
3	34	37.4	3	8	5.8			
4	20	44.3	4	6	11.0			
5	64	45.0	5	16	14.6			
6	54	53.2	6	37	14.0			
6. 1	63	56.3	9. 1	27	15.3			
2	62	55.7	2	19	13.6			
3	43	71.4	3	13	21.9			
4	47	71.2	4	17	17.2			
5	50	21.8	5	3	14.1			
6	26	52.0	6	5	19.8			

注) 1 黄色水盤：径 20 cm、深さ 18 cm、ライシメータ上に設置。

2 調査：令和 4 年(2022 年)4 月から 10 月に 3~7 日おきに飛び込み有翅虫数を調査した。

3 \*：平成 24 年から令和 3 年(2021)までの平均値。

(2) 発生状況調査

①巡回による調査

○安来地区

調査 年月日	調査 圃場数	ワタアブラムシ				
		発生圃 場率 (%) <sup>1)</sup>	寄生株 率 (%)	寄生小 葉率 (%)	発生圃 場率 (%) <sup>2)</sup>	寄生 花率 (%)
2022年3月11日	5	0	0	0	0	0
3月24日	9	11.1	1.1	0.1	22.2	1.1
4月25日	10	10.0	7.0	4.3	20.0	4.4

1) 調査株数：10株(1株3複葉)/圃場。

2) 調査花数：50花/圃場。

5) ハダニ類

(1) 発生状況調査

①巡回による調査

○安来地区

調査 年月日	調査 圃場数	カンザワハダニ			ナミハダニ		
		発生 圃場率 (%)	寄生 株率 (%)	寄生小 葉率 (%)	発生 圃場率 (%)	寄生 株率 (%)	寄生小 葉率 (%)
2022年3月11日	5	0	0	0	66.0	32.0	20.2
3月24日	9	0	0	0	66.7	25.6	17.4
4月25日	10	0	0	0	60.0	40.0	27.0

注) 調査株数：20株(1株3複葉)/圃場。

6) アザミウマ類

(1) 発生状況調査

①巡回による調査

○安来地区

調査年月日	調査 圃場数	発生圃場率 (%)	寄生株率 (%)
2022年3月11日	5	20.0	2.0
3月24日	9	33.3	1.8
4月25日	10	80.0	27.0

注) 調査花数：50花/圃場。寄生種はヒラズハナアザミウマであった。

## 7) コナジラミ類

### (1) 発生状況調査

アブラムシ類と同時に調査を行った。

#### ①巡回による調査

○安来・出雲地区

調査年月日	調査 圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)
2022年3月11日	5	20.0	10.0
3月24日	9	0	0
4月25日	10	0	0

注) 調査株数：20 株(1 株 3 複葉)/圃場。寄生種はオンシツコナジラミであった。

#### IV) 花卉

##### (I) キク

#### 1. 病害虫に関する調査結果

##### 1) 白さび病

###### (1) 発病状況調査

###### ①巡回による調査

○調査場所：出雲市

調査年月日	調査 ほ場数	白さび病	
		発生ほ場率 (%)	発病葉率 (%)
2022年 5月31日	4	0	0
6月30日	4	0	0
9月26日	4	0	0
10月31日	4	0	0
12月 2日	4	25.0	0.08

##### 2) アザミウマ類

###### (1) 発生状況調査

###### ①巡回による調査

○調査場所：出雲市

調査年月日	調査 圃場数	発生圃場率 (%)	被害茎頂率 (%)
2022年 5月31日	3	33.3	0.7
6月30日	4	50.0	1.0
7月22日	4	25.0	2.0
9月26日	4	25.0	1.0
10月31日	4	0	0
12月 2日	4	25.0	0.5

注) 調査茎頂数：50 茎頂／圃場

### 3) アブラムシ類

(1) 黄色水盤による有翅虫の有殺状況

①半旬別誘殺数

イチゴのアブラムシ類の項参照。

(2) 発生状況調査

①巡回による調査

○調査場所：出雲市

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率 (%)	寄生茎頂率 (%)
2022年 5月31日	3	33.3	15.3
6月30日	4	25.0	4.5
7月22日	4	50.0	4.0
9月26日	4	0	0
10月31日	4	0	0
12月 2日	4	0	0

注) 調査茎頂数：50 茎頂／圃場、寄生種はワタアブラムシであった。

### 4) ハダニ類

(1) 発生状況調査

①巡回による調査

○調査場所：出雲市

調査年月日	調査圃場数	茎におけるハダニ類の有無			支柱におけるハダニ類の有無	
		発生圃場率 (%)	寄生茎率 (%)	寄生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	徘徊支柱率 (%)
2022年 5月31日	3	33.3	5.0	1.7	0	0
6月30日	4	25.0	2.5	1.3	25.0	2.5
7月22日	4	75.0	10.0	7.5	75.0	7.5
9月26日	4	75.0	35.0	19.6	75.0	25.0
10月31日	4	100	16.3	9.2	50.0	3.8
12月 2日	4	75.0	23.8	17.5	50.0	16.3

注) 調査方法：各圃場 20 茎の上部と中部、下部の各 1 葉の計 3 葉/茎に寄生しているハダニ類の寄生の有無を調べた。また、各圃場においてフラワーネットを支えている 20 本の支柱上部先端について、ハダニ類の徘徊の有無を調べた。なお、圃場で見つかったハダニ類は全てナミハダニであった。



V) 病害虫発生程度別面積 2022 (R.4)

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					防除面積(ha)		備考
			甚	多	中	少	計	実	延	
普通期水稻	16,400	苗立枯病	0	0	5	35	40	13,300	13,300	
		苗いもち	0	0	0	22	22	0	0	
		葉いもち	0	35	200	1,645	1,880	12,000	13,000	
		穂いもち	0	15	200	1,185	1,400	8,500	10,500	
		紋枯病	1	35	450	5,200	5,686	6,000	7,500	
		白葉枯病	0	0	5	25	30	0	0	
		ばか苗病	0	0	1	14	15	13,200	13,200	
		もみ枯細菌病	0	0	2	30	32	100	100	
		もみ枯細菌病 (種子消毒)				-	-			
		ごま葉枯病	5	25	200	4,500	4,730	-5,000	-5,000	
		黄化萎縮病	0	0	0	6	6	0	0	
		縮葉枯病	0	1	5	20	26	0	0	
		萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	
		稲こうじ病	0	1	7	325	333	500	500	
		ニカメイガI	0	0	0	2,000	2,000	-13,000	-13,000	
		ニカメイガII	0	0	0	2,000	2,000	-10,000	-10,000	
		セジロウンカ	0	0	0	9,122	9,122	-15,000	-15,000	
		トビイロウンカ	0	10	0	3,733	3,743	15,000	15,000	
		ヒメトビウンカ	0	0	0	15,338	15,338	-18,000	-18,000	
		ツマグロヨコバイ	0	0	0	730	730	-15,000	-15,000	
		イネミギワバエ	0	0	0	800	800	-13,000	-13,000	
		イネドロオウムシ	0	0	0	60	60	-13,000	-13,000	
		イネゾウムシ	0	0	0	600	600	-13,000	-13,000	
イネクロカメムシ	0	10	20	140	170	130	130			
斑点米カメムシ類	0	700	0	7,000	7,700	10,100	10,100			
イチモンジセセリ	0	0	0	100	100	0	0			
フタオビコヤガ	0	0	0	100	100	0	0			
イネヨトウ	0	0	0	50	50	0	0			
アワヨトウ	0	0	0	50	50	0	0			
コブノメイガ	0	0	0	370	370	0	0			
イネミズゾウムシ	933	1,556	1,556	7,156	11,201	13,000	13,000			
さび病類	712	0	0	1	2	3	0	0		
うどんこ病		0	0	0	0	-	0	0		
赤かび病		0	0	0	3	3	600	1,200		
黒節病		0	2	10	100	112	0	0		

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					防除面積(ha)		備考
			甚	多	中	少	計	実	延	
大豆	804	アブラムシ類	0	1	15	75	91	300	350	
		ハスモンヨトウ 吸実性カメムシ類	0	3	55	250	308	400	600	
なし	66	黒斑病	2	25	140	450	617	450	600	
		黒星病	0	3	8	25	36	35	455	
		ナシヒメシンクイ	0	0	3	10	13	66	462	
		モモシンクイガ	0	1	10	6	17	65	130	
		ハマキムシ類	0	0	0	10	10	65	130	
		ハダニ類	0	0	11	40	51	65	130	
		カマムシ類	0	1	20	34	55	65	195	
		カイガラムシ類	0	3	15	22	40	65	195	
		アブラムシ類	0	0	0	10	10	65	65	
		ニセナシサビダニ	0	0	7	8	15	65	65	
		炭そ病	2	8	20	20	50	65	195	
		かき	295	うどんこ病	0	0	2	10	12	250
落葉病類	1			1	4	27	33	250	750	
カキノヘタムシガ(カキミガ)	1			5	15	35	56	250	750	
カイガラムシ類	0			1	9	60	70	250	500	
カメムシ類	0			15	40	65	120	250	750	
ハマキムシ類	5			15	40	100	160	250	1,000	
チャノキイロアザミウマ	0			20	45	35	100	250	500	
カキクダアザミウマ	0			0	25	45	70	250	500	
黒腐病	0			0	0	50	50	250	500	
菌核病	0			0	1	10	11	30	60	
アブラムシ類	0			0	0	8	8	30	60	
夏秋キヤベツ	50			モンシロチョウ	0	1	2	8	11	30
		コナガ	0	0	1	6	7	48	200	
		ヨトウガ	0	0	2	15	17	48	200	
		オオタバコガ	0	1	2	7	10	48	200	
		ハスモンヨトウ	0	1	2	12	15	48	200	
		黒腐病	0	1	7	14	22	48	200	
		菌核病	0	0	3	15	18	40	60	
		アブラムシ類	0	0	3	15	18	45	90	
		モンシロチョウ	0	1	1	10	12	100	150	
		コナガ	0	0	5	20	25	120	240	
		ヨトウガ	0	0	3	15	18	120	240	
		オオタバコガ	0	1	15	20	36	120	240	
冬キヤベツ	132	ハスモンヨトウ	0	0	1	10	11	120	240	
		黒腐病	0	2	12	50	64	120	240	

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					防除面積(ha)		備考
			甚	多	中	少	計	実	延	
タマネギ	121	白色疫病	0	0	5	16	21	80	320	
		べと病	1	2	10	47	60	121	726	
		ボトリチス属菌による葉枯れ	0	0	0	14	14			
イチゴ	18	灰色かび病	0	0	0	3	3	18	60	
		うどんこ病	0	0	0	5	5	18	80	
		炭疽病	0	0	2	5	7	18	80	
		アブラムシ類	0	1	1	10	12	18	36	
		アザミウマ類	0	0	2	7	9	18	36	
		ハダニ類	1	1	5	8	15	18	72	
野菜共通 さく	182 8	シロイチモジヨトウ	0	2	6	31	39	168	440	
		白さび病	0	0	0	2	2	8	40	
		ハダニ類	0	1	1	5	7	8	64	
		アザミウマ類	0	0	1	6	7	8	56	
		アブラムシ類	0	0	1	7	8	8	56	

VI) 病害虫発生経過の概要及び発生原因の解析(2022・R4年)

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
イネ	いもち病	葉いもち 平年並 穂いもち 平年並	葉いもち 平年並 穂いもち 平年並	葉いもちの初発生は6月28日に認められた。7月下旬の巡回調査(70ほ場)では、発生ほ場率が4.3%(平年9.4%)、発病株率が1.6%(平年3.4%)と平年に比べてやや低かった。県内の一部で発病程度の高いほ場もみられ、全般の発生量は平年並みであった。穂いもちは平年並みの8月上旬に確認された。8月下旬の巡回調査(70ほ場)における発生ほ場率は1.4%、発病株率は0.2%と平年に比べてやや低かったが、県内の一部で発病程度の高いほ場もみられ、全般の発生量は平年並みであった。	BLASTAM(アメダス観測15地点)による6月の感染好適日の出現回数は6回(平年24.1回)と少なかった。7月中旬以降、降雨頻度はやや多くなったものの、7月の感染好適日の出現回数は第5半旬までに18回(平年28.9回)と平年に比べてやや少なく、葉いもちの発生量は平年並みとなったものと考えられる。出穂期前の第6半旬には感染好適日の出現はほとんどなかった。8月中旬以降、降雨頻度はやや多かったが、8月の感染好適日の出現回数が4回(平年12.9回)と平年に比べて少なかったことから、穂いもちの発生が抑制されたものと考えられる。	常習発生地では育苗箱施薬が行われた。また、発生に応じ薬剤散布が行われた。
	紋枯病	平年並	平年並	初発生は7月4日に認められた。7月下旬の巡回調査(70ほ場)では、発生ほ場率が14.3%(平年14.3%)、発病株率が2.8%(平年1.9%)と平年並みであった。発生ほ場では水平進展が活発であった。8月下旬の巡回調査(70ほ場)における発生ほ場率は25.7%、発病株率は4.0%と平年に比べてやや低かったが、県内の一部で発生が多いほ場もみられ、全般の発生量は平年並みであった。	6月下旬～7月上旬にかけて気温が高く推移したため茎数が多く、また7月中旬以降は降雨頻度もやや多かったが、近年の発生量がやや少ない～平年並みで伝染源量がやや少ないこと、7月中旬以降の気温がやや低い～平年並みに推移したことから、初期の発生は平年並みとなったものと考えられる。8月中旬以降、降雨頻度がやや多く、風害等により倒伏被害を生じたことから、初期の発生が多かったほ場では上位進展が助長されたものと考えられる。	育苗箱施薬や発生に応じて出穂期までに薬剤散布が行われた。
	縞葉枯病	平年並	平年並	初発生は6月28日に認められた。県内の一部地域で発病程度の高いほ場がみられたが、再生稲の調査(115ほ場)における発生ほ場率は10.4%、発病株率は0.7%で、全般の発生量は平年並みであった。	ヒメトビウンカの越冬世代幼虫の保毒虫率は、定点調査では0%(平年0.6%)と極めて低く、県内全域での発生は少なかったものと考えられる。前年発生が多かった一部地域では、保毒虫が越冬していたものと考えられる。	過去に縞葉枯病が多発生した地域では、箱施薬剤等による媒介虫のヒメトビウンカに対する防除が行われた。
	稲こうじ病	平年並	平年並	県内で例年発生が多いきぬむすめ栽培ほ場における9月上旬の調査(115ほ場)では、一部で発病程度の高いほ場もみられ、発生ほ場率が29.6%、発病株率が3.0%とやや高かったが、全般の発生量は平年並みであった。	きぬむすめの穂ばらみ期～出穂期にあたる8月上旬～中旬の降水量は平年に比べてやや多かったが、気温がやや高く推移したため、全般の発生量は平年並みとなったものと考えられる。	常習発生地では発生に応じ薬剤散布が行われた。
	ばか苗病	平年並	平年並	巡回調査(70ほ場)では発生は認められなかった。全般の発生量は平年並みであった。	種子更新及び種子消毒の実施により、発生が抑制されたものと考えられる。	種子消毒が行われた。
	もみ枯細菌病	平年並	やや多い	9月上旬のきぬむすめ栽培ほ場における調査(115ほ場)では、一部で発病程度の高いほ場もみられ、発生ほ場率が14.8%、発病株率が0.6%とやや高かった。	きぬむすめの出穂期前後にあたる8月上旬～下旬の気温が平年に比べてやや高く、降水量が平年に比べて多かったことから、発生を助長したものと考えられる。	種子消毒及び穂いもちとの同時防除が行われた。
	イネミズゾウムシ	平年並	やや多い	前年の新成虫発生量はやや多かった。5月中旬の巡回調査では発生ほ場率が30.4%(平年27.0%)、50株当たり寄生虫数が1.93頭(0.62頭)と平年と比べてやや多く、その後もやや多く推移した。	前年発生した新成虫の数がやや多く、越冬成虫がやや多くなったと考えられた。	大部分のほ場では育苗箱施薬が行われた。
	コブノメイガ	平年並	平年並	現地ほ場の成虫の発生は平年並みであった。7月中旬の巡回調査では発生ほ場率が2.2%(平年8.4%)、25株当たり被害株率が0%(平年1.7%)と平年並みであった。その後も発生ほ場率、25株当たりの被害株率は平年並みであった。全般の発生量は平年並みであった。	飛来時期、飛来数ともに平年並みであり、全般の発生量も平年並みとなったと考えられる。	大部分のほ場では育苗箱施薬が行われた。
	セジロウンカ	平年並	やや多い	現地ほ場の成虫の発生は、6月下旬において発生ほ場率が19.6%(平年35.1%)、50株当たり虫数が0.8頭(平年2.3頭)と平年並みであった。7月中旬において発生ほ場率が50.0%(平年68.0%)、50株当たり虫数が2.2頭(平年60.6頭)と平年と比べてやや少なかった。7月下旬において発生ほ場率が54.3%(平年72.3%)、50株当たり虫数は7.4頭(平年30.8頭)と、全般の発生量は平年に比べてやや少なかった。なお、予察灯での初飛来は7月14日と平年並みで、全般の飛来量は平年に比べてやや多く経過した。	飛来時期は平年並みであったが、8月第4半旬に多くの飛来が確認されたため、全般の発生量は平年に比べてやや多くなったと考えられる。	大部分のほ場では育苗箱施薬が行われた。また、出穂時に穂いもち・ウンカ類の同時防除が行われた。7月15日に注意報第2号斑点米カメムシ類を発表したため、同時期に防除されたと考えられる。
	ツマグロヨコバイ	平年並	やや少ない	6月下旬の調査では発生ほ場率が17.4%(平年23.6%)、50株当たり虫数が0.6頭(平年1.8頭)と平年に比べてやや少なかった。7月中旬の調査では発生ほ場率が32.6%(平年44.9%)、50株当たり虫数が3.4頭(平年7.8頭)で、その後、発生量も平年と比べてやや少なくなってきた。なお、予察灯での飛来量は平年に比べて少なくなってきた。	ほ場における発生量が平年と比べてやや少なく、大部分のほ場で育苗箱施薬が行われていることもあり、全般の発生量は平年よりやや少なくなったものと考えられる。	大部分のほ場では育苗箱施薬が行われた。

トビイロウンカ	平年並	やや多い	ほ場での成幼虫の発生は、8月下旬の巡回調査では発生ほ場率が22.2% (平年35.9%)、50株当たり虫数が2.34頭 (平年15.6頭) と平年並みであった。全般の発生量は平年に比べやや多く推移した。	8月第3半旬まで飛来量が平年並みであったが、その後、8月第4半旬に飛来が確認され、全般の発生量も平年と比べやや多くなったと考えられる。	大部分のほ場では育苗箱施薬が行われた。また、出穂時に穂いもち・ウンカ類の同時防除が行われた。7月15日に注意報第2号斑点米カメムシ類を発表したため、同時期に防除されたと考えられる。	
ニカメイガ	第1世代遅い 第2世代平年並	第1世代やや少ない 第2世代平年並	予察灯での初誘殺は6月第2半旬と平年に比べ遅く、第1世代全般の誘殺数は平年に比べやや少ない、6月下旬のほ場での被害株率は平年並みだった。予察灯での第2世代全般の誘殺数は平年並み、7月下旬のほ場での被害株率は平年並みであった。	第1世代全般の誘殺数は平年に比べやや少なく、大部分のほ場で育苗箱施薬が行われており、平年並みに推移したものと考えられる。	大部分のほ場では育苗箱施薬が行われた。	
斑点米カメムシ類	平年並	やや多い	6月下旬のほ場周辺雑草地でのすくい取り調査では、斑点米カメムシ類合計で発生量は10.7頭/20回振り (平年10.7頭) と平年並みであった。7月中旬の出穂ほ場調査では、発生ほ場率は100% (平年82.7%)、発生量は23.5頭/20回振り (平年7.4頭) と平年と比べ多く、注意報第2号水稻斑点米カメムシ類を発表した。7月下旬では、発生ほ場率は50.0% (平年56.0%)、発生量は2.9頭/20回振り (平年3.5頭) と平年並みであった。8月下旬の調査では、発生ほ場率は50.0% (平年31.9%)、発生量は3.5頭/20回振り (平年4.4頭) と平年並みだった。全般の発生量はやや多く推移した。主な発生種はアカスジカスミカメであったが、大型のカメムシ類の発生量が多かった。予察灯でのアカスジカスミカメ誘殺数は平年並みであった。	7月中旬の出穂ほ場調査での発生量は平年に比べて多かった。予察灯へのアカスジカスミカメの誘殺数は平年並みであった。冬期の気温がやや高かったため大型カメムシ類の越冬量が多く、ほ場での発生量が多くなったと考えられる。発生に応じて本田防除が行われ、8月下旬の調査では発生量は平年並みとなったものと考えられる。	発生に応じて穂揃い・乳熟期～糊熟期に薬剤散布が行われた。また、7月15日に注意報第2号斑点米カメムシ類を発表し注意喚起を実施した。	
ヒメトビウンカ	平年並	やや多い	4月中旬の耕起前水田内の越冬世代成幼虫すくい取り調査では、発生ほ場率が20.9% (平年34.8%)、捕獲数が0.5頭/20回振り (平年1.5頭) と平年並みであった。6月下旬の調査では発生ほ場率が52.2% (平年31.1%)、50株当たり虫数が16.4頭 (平年1.6頭) と平年に比べてやや多かった。	ほ場内への飛び込みが多く平年に比べてやや多く推移したものと考えられる。	大部分のほ場では育苗箱施薬が行われた。	
フタオビコヤガ	平年並	平年並	全般の発生量は平年並みであった。	発生量は平年並みであり、大部分のほ場で育苗箱施薬が行われており平年並みに推移したと考えられる。	大部分のほ場では育苗箱施薬が行われた。	
ムギ	さび病	平年並	やや少ない	コムギ赤さび病の発生量は平年に比べてやや少なかった。オオムギの小ささび病の発生は確認できなかった。全般の発生量はやや少なかった。	赤さび病、小ささび病は近年発生が少ない～平年並みであることから、伝染源量が少ないものと考えられる。	本病を対象とした薬剤散布は特に行われなかった。
	赤かび病	平年並	コムギ平年並 オオムギ少ない	オオムギでの発生は確認できなかった。コムギの発生量は平年並みであった。	オオムギ、コムギともに近年の発生量が少なく、伝染源量は少ないものと考えられる。コムギの出穂期前後に感染に好適な降雨があり、発生を助長したものと考えられる。	ムギの種類に応じて出穂期以降、薬剤散布が実施された。
	うどんこ病	—	少ない	オオムギ、コムギとも巡回調査では発生を確認できなかった。	近年発生が少ないことから、伝染源量が少ないものと考えられる。	本病を対象とした薬剤散布は特に行われなかった。
ダイズ	ハスモンヨトウ	平年並	平年並	フェロモントラップによる雄成虫の誘殺数は7月以降平年並みに推移した。白変葉の発生は県東部で8月中旬と平年並みで、1a当たりの白変葉数は8月末、9月ともに平年並みであった。全般の発生量も平年並みであった。	成虫の飛来量が7月以降平年並みであったことから、全般の発生量も平年並みになったものと考えられる。	発生に応じて薬剤散布が行われた。
	アブラムシ類	平年並	平年並	黄色水盤におけるアブラムシ類の誘殺状況は6、7月は平年並み、8月はやや多く、9月は平年並みであった。県内各地で発生がみられたが、全般の発生量は平年並みであった。	アブラムシ類の飛来は播種 (6月) から9月まで全般を通すと平年並みであったため、全般の発生量は平年並みになったものと考えられる。	発生に応じて薬剤散布が行われた。
	吸実性カメムシ類	平年並	やや多い	県内各地で発生がみられ、全般の発生量はやや多かった。	冬期の気温がやや高かったため、越冬量がやや多くなったと考えられる。また、3月以降9月まで気温が高かったため発生を助長したと考えられる。これらの要因により、全体の発生量はやや多くなったものと考えられる。	落花後から10日おきに2回程度、薬剤散布が行われた。
ナシ	黒斑病	平年並	平年並	一部多発園もみられたが、全般の発生量は平年並みであった。	5～7月上旬の降水量が少なかったことで初期発生が抑制され、発生量は平年並みになったと考えられる。	袋がけ時期を中心に薬剤散布がよく行われた。以後、収穫期まで薬剤散布が行われた。
	黒星病	平年並	平年並	全般の発生量は平年並みであった。	5～7月上旬の降水量が少なかったことで初期発生が抑制され、発生量は平年並みになったと考えられる。	開花期から袋かけ期を中心に薬剤防除が行われた。

	ナシヒメシクイ	やや早い	やや多い	フェロモントラップでの越冬世代、第1世代雄成虫の誘殺時期はやや早かった。誘殺数は越冬世代、第1世代雄成虫が平年に比べてやや多く、以降も同様の傾向で推移した。幼虫による被害は平年並みであった。	春先から気温が高く推移したため越冬世代成虫の発生時期はやや早かった。越冬世代の活動が平年より早く開始され、5月以降気温が高く推移し、降水量は少なく推移したため発生量はやや多くなったと考えられる。定期的な薬剤防除に加え、本県ではほとんどが有袋栽培のため果実の被害は平年並みとなったと考えられる。	他害虫との同時防除が行われた。果実袋の使用が行われた。
	モモシクイガ	平年並	平年並	フェロモントラップでの越冬世代、第1世代雄成虫の誘殺時期は平年並みであった。また、誘殺数、果実被害とも全般に平年並みであった。	前年の発生は平年並みで、越冬世代成虫の発生量も平年並みと考えられる。春先から気温が高く推移し、発生時期は平年並みとなった。また、本県ではほとんどが有袋栽培のため果実の被害は平年並みとなったと考えられる。	ナシヒメシクイ、ハマキムシ類との同時防除が行われた。
	ハマキムシ類	平年並	やや多い	フェロモントラップでのチャノコカクモンハマキ、チャハマキ越冬世代の発生時期は共に平年並みであった。トラップによるチャノコカクモンハマキの誘殺数はやや多く、チャハマキの誘殺数は平年並みであった。ハマキムシ類全般の発生量はやや多かった。幼虫による被害は平年並みであった。	9月は気温が高く、降水量は少なく推移したためチャノコカクモンハマキの発生量はやや多くなった。6月以降基幹防除が行われ、被害量は平年並みとなったと考えられる。	ナシヒメシクイ、モモシクイガとの同時防除が行われた。
	ハダニ類	平年並	平年並	4月下旬における花叢への寄生率は平年に比べてやや少なかった。5～6月は増加傾向を示した。しかし7月は減少して平年に比べて少なくなり、8月は増加して平年に比べ多くなった。全般の発生量は平年並みであった。	カンザワハダニの越冬量はやや少なく、4月下旬にクワオオハダニの花叢への寄生がみられた。生育初期の発生量は平年に比べてやや少なかった。その後、5～6月の気温が高く増加傾向を示した。7～8月にかけての寄生率の推移は、7月上旬の防除による密度低下、8月の気温上昇による密度上昇に起因するものと考えられる。発生に応じて殺ダニ剤が散布され全般の被害は平年並みとなった。	5月下旬～6月、7月上旬、8月上旬を中心に薬剤散布が行われた。
	クワコナカイガラムシ	やや遅い	平年並	全般の発生量は平年並みであった。	定期防除により発生が平年並みに抑えられた。	防虫果袋が使用された。
	アブラムシ類	平年並	やや少ない	越冬成虫の発生時期は平年並みとなった。5月下旬の新梢への寄生程度は平年に比べてやや多かった。全般の発生量は平年に比べてやや少なかった。	春先から気温が高く、降水量は少なく推移したが、5月の発生密度増加に対し薬剤散布が適切に行われたため、全般の発生量はやや少なかったと考えられる。	5～6月に薬剤散布が行われた。
	カメムシ類	平年並	やや多い	フェロモントラップでは4月17日から、予察灯では5月25日から誘殺された。その後、誘殺数は6月中旬まで平年並みであったが、6月下旬から増加し、9月下旬まで誘殺が認められた。全般の発生量は平年に比べやや多かった。被害は平年並みであった。主要なカメムシ類の発生種はチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシであった。	前年はヒノキ毬果が平年並みであったため、カメムシ類の越冬量は平年並みと考えられる。本年のヒノキ花粉飛散量は平年並み、飛来時期は平年並みであった。8月下旬以降も気温が高くほ場への飛来は続いたが、防除も行われ、また有袋栽培のため果実被害は平年並みとなった。	フェロモントラップ、予察灯での誘殺数が6月下旬に増加したため、7月15日付けで注意報第1号果樹カメムシ類を発表した。7月上旬、8月上旬を中心に薬剤散布が行われた。
カキ	炭疽病	平年並	平年並	枝、果実ともに発生量は平年並みであった。	前年に多発したことから、伝染源量は多いと考えられるが、降水量が5～7月上旬まで少なく推移したことから、枝での発病が抑制され、発生量が平年並みとなったと考えられる。	梅雨期と8月下旬～9月を中心に薬剤散布が行われた。
	うどんこ病	やや早い	少ない	初発は6月下旬に確認され、平年と比べてやや早い発生となったが、7月以降の発生量は平年と比べて少なく推移した。	7、8月の気温が平年に比べて高く推移したため、病勢が抑制され、平年と比べて発生量が少なくなったと考えられる。	8月下旬～9月を中心に薬剤散布が行われた。
	落葉病類 (円星落葉病)	平年並	平年並	9月以降に発生が認められ、発生量は平年並みであった。	—	5～7月に薬剤散布が行われた。
	カキミガ	平年並	平年並	一部多発地域があったが、果実での発生量、被害量とも全般に平年並みであった。	防除効果の高い薬剤が適期に散布されたためと考えられる。	各世代発生期に薬剤散布が行われた。
	ハマキムシ類	平年並	やや多い	フェロモントラップでのチャノコカクモンハマキ、チャハマキ越冬世代の発生時期は共に平年並みであった。トラップによるチャノコカクモンハマキの誘殺数はやや多く、チャハマキの誘殺数は平年並みであった。ハマキムシ類全般の発生量はやや多かった。幼虫による被害は平年並みであった。	9月は気温が高く、降水量は少なく推移したためチャノコカクモンハマキの発生量はやや多くなった。6月以降基幹防除が行われ、全般の被害量は平年並みとなったと考えられる。	他害虫との同時防除が行われた。
	カメムシ類	平年並	やや多い	フェロモントラップでは4月17日から、予察灯では5月25日から誘殺された。その後、誘殺数は6月中旬まで平年並みであったが、6月下旬から増加し、9月下旬まで誘殺が認められた。全般の発生量は平年に比べやや多かった。被害は平年並みであった。主要なカメムシ類の発生種はチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシであった。	前年はヒノキ毬果が平年並みであったため、カメムシ類の越冬量は平年並みと考えられる。本年のヒノキ花粉飛散量は平年並み、飛来時期は平年並みであった。8月下旬以降も気温が高くほ場への飛来は続いたが、防除が適切に行われ、果実への被害は平年並みとなった。	フェロモントラップ、予察灯での誘殺数が6月下旬に増加したため、7月15日付けで注意報第1号果樹カメムシ類を発表した。7月上旬、8月上旬を中心に薬剤散布が行われた。

	カイガラムシ	平年並	平年並	フジコナカイガラムシの性フェロモントラップでは越冬世代が4月下旬から誘殺された。その後、第1世代は7月上旬から誘殺された。一部ほ場では発生が多く被害が確認されたが、全般の発生量、被害は平年並みであった。	越冬世代の発生時期は平年並みであった。各世代の幼虫発生時期に合わせ防除を行ったため被害も平年並みとなったと考えられる。	各世代発生期に薬剤散布が行われた。
	カキクダアザミウマ	平年並	平年並	5月上旬に被害捲葉の発生を認めた。発生量は平年並みであった。第1世代成虫は6月下旬から粘着トラップに誘殺され、誘殺数は平年並みであった。被害量は平年並みであった。	越冬成虫の飛来量が平年並みであったこと、成虫飛来時期の薬剤散布と被害捲葉の除去などの防除対策により、果実被害の発生量は平年並みとなったと考えられる。	越冬成虫飛来期の薬剤散布と捲葉の切除が行われた。
	アザミウマ類 (チャノキイロアザミウマ)	平年並	平年並	チャノキイロアザミウマが主要種となった。5月下旬に粘着トラップに初誘殺され、その後の誘殺数は平年並みであった。被害は平年並みであった。	全体の発生量は平年並みであった。摘果と薬剤散布により被害は平年並みとなったと考えられる。	6月上旬に薬剤散布が行われた。
夏秋キャベツ	黒腐病	平年並	やや多い	県内各地で発生がみられたが、全般の発生量は平年に比べてやや多かった。	結球期に当たる8月～9月上旬の降水量が平年に比べて多かったことから、感染機会が多々あったものと推察された。	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	菌核病	平年並	やや少ない	県内各地で発生がみられたが、全般の発生量は平年に比べてやや少なかった。	近年の傾向として発生量がやや少ないことから、伝染源量が減少し発生の抑制に繋がっているものと考えられる。	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	アブラムシ類	—	やや少ない	8月から9月中旬の黄色水盤による有翅虫の誘殺数は平年並みであったが、その後は少なかった。県内各地で発生がみられたが、全般の発生量はやや少なかった。	8、9月の有翅虫の飛来数が全般に平年並～やや少なかったため、発生量はやや少なくなったと考えられる。	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	ヨトウガ	—	平年並	県内各地で発生がみられ、全般の発生量は平年並みであった。	—	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	シロイチモジ ヨトウ	—	やや多い	フェロモントラップによる雄成虫の誘殺数はやや多かった。ほ場での発生も確認された。	成虫の飛来量がやや多かったため、発生量はやや多くなったと考えられる。	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	オオタバコガ	—	平年並	フェロモントラップによる雄成虫の誘殺数は平年並みであった。ほ場での発生は平年並みであった。	成虫の飛来量が平年並みであったため、発生量は平年並みとなったと考えられる。	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	コナガ	—	少ない	幼虫の発生量は8月末は平年並みであったが、9月末には少なかった。全般の発生量は少なかった。	8月の成虫飛来量は平年並みと考えられたが、チョウ目害虫に効果の高い薬剤の散布により、発生量は少なくなったものと考えられる。	定植時の粒剤施用または灌注（土壌またはセルトレイ）と、その後は他のチョウ目害虫（ハスモンヨトウ）との同時防除が行われた。一部ほ場では交信かく乱剤による防除が行われた。
	ハスモンヨトウ	—	平年並	フェロモントラップによる雄成虫の誘殺数は8月以降ほぼ平年並みに推移した。8月下旬と9月下旬の発生ほ場率、寄生株率は共に平年並みであった。全般の発生量は平年並みであった。	8月以降の成虫飛来量が平年並みであったことから、発生量は平年並みとなったものと考えられる。	定植時の粒剤施用または灌注（土壌またはセルトレイ）による防除のほか、発生に応じて薬剤散布が行われた。
	冬キャベツ	黒腐病	平年並	平年並	県内各地で発生が認められたが、全般の発生量は平年並みであった。	—
	菌核病	平年並	平年並	県内各地で発生が認められたが、全般の発生量は平年並みであった。	—	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	アブラムシ類	—	やや少ない	8月中旬から9月中旬の黄色水盤による有翅虫の誘殺数は平年並みであったが、その後は少なかった。県内各地で発生がみられたが、全般の発生量はやや少なかった。	有翅虫の飛来数が平年並～やや少なかったことと他害虫との同時防除により発生量はやや少なくなったものと考えられる。	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	ヨトウガ	—	平年並	県内各地で発生がみられ、全般の発生量は平年並みであった。	—	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	シロイチモジ ヨトウ	—	やや多い	フェロモントラップによる雄成虫の誘殺数はやや多かった。ほ場での発生も確認された。	成虫の飛来量がやや多かったため、発生量はやや多くなったと考えられる。	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	オオタバコガ	—	平年並	フェロモントラップによる雄成虫の誘殺数は平年並みであった。ほ場では発生は平年並みであった。	成虫の飛来量が平年並みであったため、発生量は平年並みとなったと考えられる。	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	コナガ	—	少ない	幼虫の発生量は8月末は平年並みであったが、9月末には少なかった。全般の発生量は少なかった。	8月の成虫飛来量は平年並みと考えられたが、チョウ目害虫に効果の高い薬剤の散布により、発生量は少なくなったものと考えられる。	定植時の粒剤施用または灌注（土壌またはセルトレイ）と、その後は他のチョウ目害虫（ハスモンヨトウ）との同時防除が行われた。一部ほ場では交信かく乱剤による防除が行われた。
	ハスモンヨトウ	—	平年並	フェロモントラップによる雄成虫の誘殺数は8月以降ほぼ平年並みに推移した。8月下旬と9月下旬の発生ほ場率、寄生株率は共に平年並みであった。全般の発生量は平年並みであった。	8月以降の成虫飛来量が平年並みであったことから、発生量は平年並みとなったものと考えられる。	定植時の粒剤施用または灌注（土壌またはセルトレイ）による防除のほか、発生に応じて薬剤散布が行われた。

タマネギ	白色疫病	平年並	やや少ない	3月下旬における発生ほ場率は16.7%（平年24.2%）、発病率は0.4%（平年1.6%）となった。全般の発生量は平年に比べてやや少なかった。	12月から3月にかけて降水量は少なく推移したため、全般の発生量は平年に比べてやや少なくなったと考えられる。	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	べと病	平年並	平年並	3月下旬における越年罹病株の発生量は1.1株/1万株（平年6.5株/1万株）、発生ほ場率は23.3%（平年28.8%）と平年に比べてやや少なかった。その後、二次感染株の発生が県内各地で認められ、5月下旬における発生ほ場率は52.0%（平年62.5%）、発病率は11.6%（平年17.5%）と平年並みであった。	12月から3月にかけて降水量は少なく推移したため、越年罹病株の発生量はやや少なかった。しかし、一部で越年罹病株の多発ほ場も認められたことから、全般の発生量は平年並みになったと考えられる。	越年罹病株の抜き取りや発生に応じた薬剤散布が行われた。
イチゴ	灰色かび病	平年並	やや少ない	県内各地で発生が認められたが、全般の発生量は平年に比べてやや少なかった。	12月から発生が認められていたが、2～3月の気温が平年に比べて高くハウスを閉め切ることが無かったためハウス内の湿度が下がり発生が抑えられ、全般の発生量は平年に比べてやや少なくなったと考えられる。	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	うどんこ病	平年並	平年並	県内各地で発生が認められたが、全般の発生量は平年並みであった。	近年の傾向として発生量がやや少なく、また適切に防除が行われていることから、伝染源量・感染機会が減少し発生の抑制に繋がっているものと考えられる。	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	炭疽病	平年並	やや多い	県内各地で発生が認められ、全般の発生量は平年に比べてやや多かった。	6月下旬～8月の気温が平年に比べて高く、灌水の機会が多かったことなどから感染の機会が増え、全般の発生量は平年に比べてやや多くなったと考えられる。	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	アブラムシ類	—	平年並	促成、半促成栽培において、3月と4月の発生量は全般には平年並みであった。	秋（2021年9-10月）の黄色水盤へのアブラムシ類の飛来数が195頭（平年216.4頭）と平年並みで、苗定植時の寄生は平年並みであったと考えられる。その後、2月まで気温はほぼ平年並みに推移し、発生量は平年並みに推移したと考えられる。3、4月は気温がやや高く、増殖には好適であったが、的確な防除により発生量は平年並みになったと思われる。	定植時とその後は発生に応じて薬剤散布が行われた。
	ハダニ類	—	平年並	促成、半促成栽培において、3月と4月の発生量は全般には平年並みであった。	3、4月の気温がやや高く、増殖には好適であったが、的確な防除により発生量は平年並みになったものと考えられる。	発生に応じて薬剤散布が行われた。
	アザミウマ類	—	平年並	促成、半促成栽培において、3月と4月の発生量は全般には平年並みであった。	3、4月の気温がやや高く、増殖には好適であったが、的確な防除により発生量は平年並みになったものと考えられる。	発生に応じて薬剤散布が行われた。
キク	白さび病	—	平年並	一部ほ場で発生が認められたが、全般の発生量は平年並みであった。	—	発生に応じて薬剤散布が行われた。
	アザミウマ類	—	平年並	県内各地で発生がみられたが、全般の発生量は平年並みであった。	—	発生に応じて薬剤散布が行われた。
	アブラムシ類	—	平年並	県内各地で発生がみられたが、全般の発生量は平年並みであった。	—	発生に応じて薬剤散布が行われた。
	ハダニ類	—	平年並	県内各地で発生がみられたが、全般の発生量は平年並みであった。	—	発生に応じて薬剤散布が行われた。



## VII) 情報の提供、諸報告に関する事項

### 1. 情報の提供方法及び提供先

#### 1) 郵送（\*印は注意報のみ）

##### ○国関係

農林水産省 消費・安全局植物防疫課、同中国四国農政局 消費・安全部 安全管理課植物防疫係、  
気象庁松江地方气象台

##### ○国立研究開発法人

農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境変動研究センター、同果樹茶業研究部門、  
同ブドウ・カキ研究拠点、同西日本農業研究センター

##### ○他県関係

\*鳥取、\*岡山、\*広島、\*山口、\*徳島、\*香川、\*愛媛、\*高知、各県担当課

##### ○県内関係

農業技術センター、島根県立松江農林高等学校、同出雲農林高等学校、同邇摩高等学校、  
同矢上高等学校、同益田翔陽高等学校、同図書館

##### ○県内団体

島根県農業協同組合、農業振興協会

##### ○報道機関

朝日、山陰中央、サンケイ、島根日日、中国、毎日、読売 各新聞社出雲支局（出雲市役所記者  
室）、NHK松江放送局、同出雲通信部、山陰放送、同ラジオ総局、山陰中央テレビ放送局、  
同出雲通信部、日本海テレビ、同出雲通信部

#### 2) F A X

##### ○県内関係

中山間地域研究センター

##### ○報道機関

日本農業新聞中国四国支所、出雲ケーブルテレビジョン、石見ケーブルテレビ

#### 3) メール

島根県農林水産部 農業経営課、同農産園芸課、同農畜産課、東部農林振興センター、  
西部農林振興センター、各農業普及部（松江、浜田、安来、雲南、出雲、邑智、大田、益田）、  
隠岐支庁農林水産局、農林大学校、各市町村、全国農業協同組合連合会中四国営農資材事業所、  
島根県農薬卸商協会、各病虫害防除員、日本農業新聞松江支局

#### 4) ホームページ

発生予察情報（発生予報、特殊報、注意報、臨時情報）

## 2. 発表状況

### 1) 発生予察情報の発表状況

種類	発表回数	発表部数	対象病害虫
発生予報	8回	200部	○イネ 葉いもち（2回）、穂いもち（3回） 紋枯病（4回）、白葉枯病（3回） もみ枯細菌病（1回）、縞葉枯病（2回） 黄化萎縮病（1回）、ヒメトビウンカ（4回） ニカメイチュウ（5回）、ツマグロヨコバイ（4回） イネミズゾウムシ（3回）、セジロウンカ（4回） トビイロウンカ（4回）、コブノメイガ（3回） 斑点米カメムシ類（4回）
			○ムギ うどんこ病（2回）、赤かび病（2回） さび病類（2回）
			○ダイズ ハスモンヨトウ（2回）
			○ナシ 黒斑病（7回）、黒星病（4回） シンクイムシ類（6回）、ハマキムシ類（3回） ハダニ類（7回）、アブラムシ類（2回） カメムシ類（2回）
			○カキ 円星落葉病（1回）、うどんこ病（3回） 灰色かび病（1回）、カキミガ（3回） チャノキイロアザミウマ（1回） カメムシ類（3回）、カキクダアザミウマ（2回）
			○果樹全般 カメムシ類（2回）
			○キャベツ 黒腐病（1回）、菌核病（1回）
			○アブラナ科野菜 アブラムシ類（1回）、コナガ（2回） アオムシ（1回）、ハスモンヨトウ（3回）
			○タマネギ ボトリチス属菌による葉枯れ（2回） べと病（2回）、腐敗病・軟腐病（2回） 白色疫病（1回）
			○イチゴ 灰色かび病（2回）、うどんこ病（2回） アブラムシ類（2回）、ハダニ類（2回）
注意報	2回	200部	○カキ、ナシ、スモモ 果樹カメムシ類 ○水稲 斑点米カメムシ類
特殊報	2回	200部	○ピーマン えそ斑紋病 ○メロン 炭腐病
技術情報	1回	200部	○果樹全般 カメムシ類

## 3. 発表内容

### 1) 注意報

- (1) 第1号（令和4年7月15日） カキ、ナシ、スモモ：果樹カメムシ類  
 (2) 第2号（令和4年7月15日） 水稲：斑点米カメムシ類

### 2) 特殊報

- (1) 第1号（令和4年7月1日） ピーマン：えそ斑紋病  
 (2) 第2号（令和4年9月21日） メロン：炭腐病

### 3) 技術情報

- (1) 第1号（令和4年7月1日） 果樹：果樹カメムシ類

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：澤村・西山]  
TEL：0853-22-6772  
FAX：0853-24-3342

## 令和4年度 病害虫発生予察情報 注意報第1号

令和4年7月15日  
島 根 県

果樹を加害するカメムシ類の発生量が多く、かき、なし、すももなどで被害が発生する恐れがありますので注意報を発表します。現地では発生状況の把握に努めるとともに、発生園では適切な防除対策を講ずるよう指導をお願いします。

### 記

- 1 病害虫名 果樹カメムシ類
- 2 発生地域 県内かき、なし、すもも栽培地帯
- 3 発生時期 7月中旬～
- 4 発生量 やや多い
- 5 注意報発表の根拠
  - 1) 予察灯（出雲市）でのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシの4月～7月2半旬までの累積誘殺数は766頭（平年値362.4頭）と平年に比べてやや多く推移している。7月第3半旬（7月14日現在）の予察灯での3種カメムシ類の誘殺数は170頭（平年値78.5頭）と増加傾向にある（図1）。
  - 2) 予察灯における3種カメムシ類の4月～7月第2半旬までの種類別誘殺数はチャバネアオカメムシ560頭（平年値272.4頭）、クサギカメムシ141頭（平年値60.8頭）、ツヤアオカメムシ234頭（平年値92.8頭）とチャバネアオカメムシ（図2）とツヤアオカメムシの割合が高い（図3）。
  - 3) チャバネアオカメムシ集合フェロモンのトラップ（出雲市）の4月～7月第2半旬までの累積誘殺数は577頭（平年値301.6頭）と平年に比べてやや多い（図4）。
  - 4) 7月中旬の巡回調査ではかきでの被害果率は2.5%（平年値0.1%）とやや多く、今後かきや無袋栽培のなしなどで被害が発生する恐れがある。なお、有袋栽培のなしでも果実の肥大に伴い果実袋を通して加害される恐れがある。
  - 5) 1か月予報（7月14日広島地方気象台発表）によると、向こう1か月の気象は本種の発生を抑制する要因とはならず被害が増加する恐れがある。
  - 6) なし（無袋）の摘果作業はほぼ終わっている。かきでは摘果作業が行われているが、果実の被害の有無に注意する。
- 6 防除対策及び防除上の注意事項
  - 1) 山間地や山沿いの園ではカメムシ類の発生加害が多いので特に注意する。
  - 2) 薬剤の使用に当たっては、本県農作物病害虫雑草防除指針を遵守する。
  - 3) 最新の農薬登録情報は、農林水産省農薬登録情報提供システム (<https://pesticide.maff.go.jp/>) で確認する。

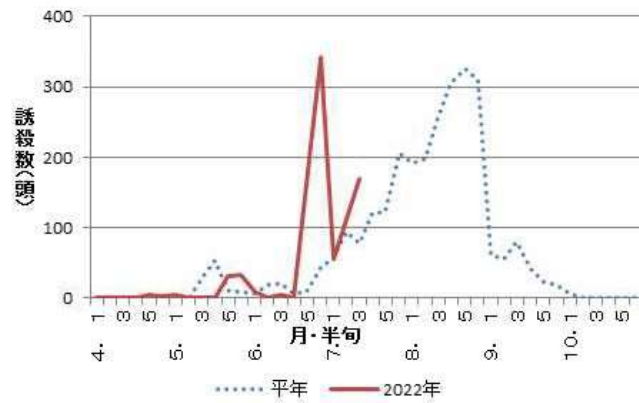


図1 予察灯における果樹カメムシ類3種の誘殺消長 (2022年)



図2 チャバネアオカメムシによる被害

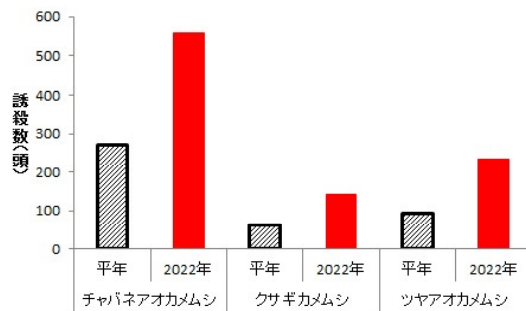


図3 果樹カメムシ類3種の種類別誘殺数 (4月第1半旬~7月第2半旬)

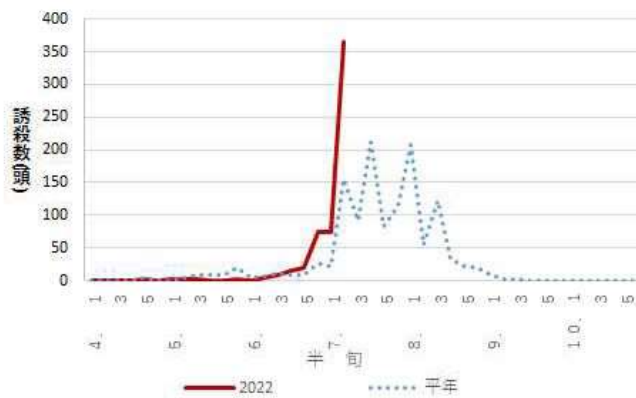


図4 チャバネアオカメムシ集合フェロモンにおける誘殺消長 (2022年)

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：角・澤村]

TEL：0853-22-6772

FAX：0853-24-3342

## 令和4年度 病害虫発生予察情報 注意報第2号

令和4年7月15日

島 根 県

斑点米カメムシ類の発生が多く、すでに出穂したほ場ではカメムシ類が高密度に生息するほ場も認められます。特に大型の斑点米カメムシ類の発生が多い状況です。今後、斑点米被害の多発生が懸念されますので注意報を発表します。

発生状況の把握に努めるとともに、適切な防除をお願いします。

### 記

- 1 病害虫名 水稲 斑点米カメムシ類
- 2 発生地域 県内全域
- 3 発生時期 7月下旬以降
- 4 発生量 多い

### 5 注意報発表の根拠

- 1) 7月12～13日に収穫している極早生ほ場ですくい取り調査を行ったところ、斑点米カメムシ類の発生ほ場率は100%（平成82.7%）、平均捕獲虫数は23.5頭/20回振り（平成7.4頭）と発生量は平年に比べて多い（図1）。
- 2) 主要種はアカスジカスミカメであるものの、大型のカメムシ類（ホソハリカメムシ、イネカメムシ、クモヘリカメムシなど）の発生ほ場率が93.3%（平成40.2%）、平均捕獲虫数4.73頭（平成1.37頭）と平年に比べて多い（図2）。
- 3) 県内主要品種（つや姫、コシヒカリ、きぬむすめ）の幼穂形成期が平年に比べて早い傾向にある。
- 4) 1か月予報（7月14日広島地方気象台発表）によると、向こう1か月の気象は本種の発生に助長的である。

### 6 防除対策及び防除上の注意事項

- 1) 粉剤、液剤による防除は、第1回目は穂揃期の3日後、第2回目はその10日後に散布する。その後、ほ場に成虫や幼虫の発生が認められる場合には追加防除を行う。広域的な一斉防除を行うとより効果的である。
- 2) 粒剤による防除は出穂期～穂揃い期7日後までに3cm程度の湛水状態で行い、散布後7日間は止水状態を保つ。その後、成幼虫の発生に応じて追加防除を行う。
- 3) 畦畔や周辺雑草地の草刈りは出穂の10日前までに行う。ほ場内のヒエ類などはカメムシ類の増殖源となるので早急に処分する。
- 4) 薬剤の使用に当たっては、本県農作物病害虫雑草防除指針の注意事項を遵守する。
- 5) 最新の農薬登録情報は、農林水産省農薬登録情報提供システム (<https://pesticide.maff.go.jp/>) で確認する。

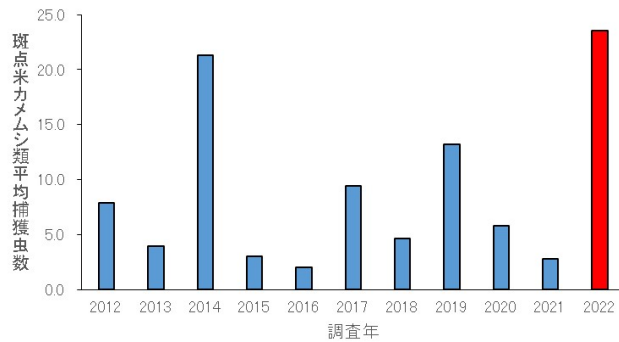


図1 斑点米カメムシ類の平均捕獲虫数 (水田20回振り7月中旬調査)

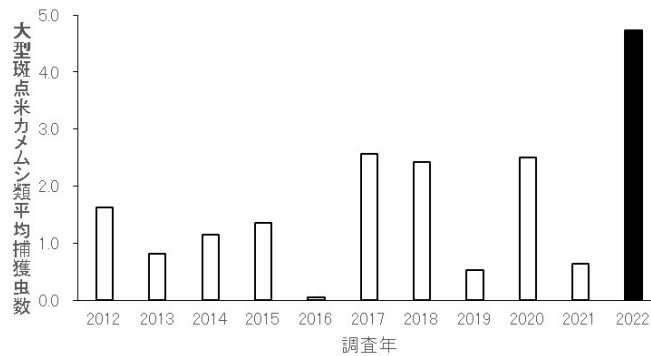


図2 大型の斑点米カメムシ類<sup>\*</sup>の平均捕獲虫数 (水田20回振り7月中旬調査)

<sup>\*</sup>※ホソハリカメムシ、イネカメムシ、クモヘリカメムシなど



図3 ホソハリカメムシ (成虫)



図4 イネカメムシ (成虫)



図5 クモヘリカメムシ (成虫)

**島根県病害虫防除所**

(島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科)

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

[https://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo\\_tech/byougaityuu/](https://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/)

○病害虫防除所のホームページでは発生予察情報の他、各種情報を掲載しています。

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：福間・澤村]

TEL：0853-22-6772

FAX：0853-24-3342

令和4年度 病害虫発生予察情報 特殊報第1号（新病害発生情報）

令和4年7月1日

島根県病害虫防除所

ピーマンえそ斑紋病の本県での発生が確認されたので特殊報を発表します。

- 1 病害虫名 ピーマンえそ斑紋病
- 2 病原名 インパチエンスえそ斑点ウイルス  
(*Impatiens necrotic spot virus* : INSV)
- 3 作物名 ピーマン
- 4 発生場所 県東部
- 5 発生経過

令和4年5月下旬、県東部の施設栽培のピーマンにおいて、葉のえそ、輪紋、茎のえそ及び萎縮を示す株が確認された（図1～4）。島根県農業技術センターで簡易検定キットによる血清診断及び RT-PCR 法による遺伝子診断を実施した結果、インパチエンスえそ斑点ウイルス（*Impatiens necrotic spot virus* : INSV）が検出され、INSVによるピーマンえそ斑紋病であることが判明した。

本ウイルスによる病害は、本県では平成28年9月にシクラメンえそ斑紋病が発生し、特殊報を発表しているが、ピーマンでの本病の発生は初めてである。国内におけるピーマンでの本病の発生は、平成14年に長野県で初めて発生が確認され、特殊報が発表されている。

## 6 病徴及び診断

### 1) 病徴

葉に退緑及び輪紋（図1）やえそ症状（図2）、茎にえそ症状（図3）、株全体の萎縮（図4）を生じる。高温期には症状が抑えられるが、感染力は変化しない。

### 2) 診断

本病害は、トマト黄化えそウイルス（*Tomato spotted wilt virus* : TSWV）によるピーマン黄化えそ病に酷似するため、病徴から病原ウイルスを特定することは困難である。本ウイルスは INSV に特異的なプライマーを使用した RT-PCR 法によって診断が可能である。

## 7 伝染経路及び宿主範囲

### 1) 伝染経路

本ウイルスは、ヒラズハナアザミウマ（図5）、ミカンキイロアザミウマ（図6）により媒介される。両種とも幼虫が罹病植物を吸汁することで本ウイルスを獲得し、成虫になってから永續伝搬するが、経卵伝染はしない。

本病は種子伝染や土壌伝染はしないと考えられる。また汁液伝染は可能であるが、管理作業等によって伝染する可能性は低いとされている。

## 2) 宿主範囲

本ウイルスの宿主範囲は極めて広く、34科以上の野菜・花きで感染報告がある。

## 8 防除対策

- 1) 発生ほ場では、罹病株を抜き取り、ほ場外に持ち出して焼却もしくは埋没処分を行い、二次感染防止に努める。
- 2) 本ウイルスに対して登録のある薬剤はないため、媒介虫であるミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマの防除を徹底する。なお、薬剤防除の際は、ミカンキイロアザミウマに対しては、当害虫または、アザミウマ類に登録のある薬剤を、ヒラズハナアザミウマに対しては、アザミウマ類に登録のある薬剤をそれぞれ散布する。また、使用する薬剤は、薬剤抵抗性害虫の出現防止のため、同一系統の連用を避けるとともに、農薬使用基準を遵守する。最新の農薬登録情報は、農林水産省農薬登録情報提供システム (<https://pesticide.maff.go.jp/>) で確認する。
- 3) 施設栽培では、開口部に目合い 0.4mm 以下の防虫網を張り、施設内へのアザミウマ類の侵入を防ぐ。
- 4) 収穫後の残渣やほ場内及び周辺の雑草はアザミウマ類の生息・繁殖場所となるので、残渣処理や除草を徹底する。
- 5) 施設栽培終了後は、すべての株を抜根または地際部を切断した上で密閉して蒸し込み、アザミウマ類を死滅させる。

## 9 その他

疑わしい症状が発生している場合は、島根県病害虫防除所（農業技術センター 資源環境研究部 病虫科：0853-22-6772）に連絡する。



図1 葉の退緑及び輪紋



図2 葉のえそ輪紋



図3 茎のえそ斑





図4 株全体の萎縮



図5 ヒラズハナアザミウマ



図6 ミカンキイロアザミウマ

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：福間・澤村]

TEL：0853-22-6772

FAX：0853-24-3342

令和4年度 病害虫発生予察情報 特殊報第2号（新病害発生情報）

令和4年9月21日

島根県病害虫防除所

メロン炭腐病の本県での初発生が確認されたので特殊報を発表します。

- 1 病害虫名 メロン炭腐病<sup>すみぐされびょう</sup>
- 2 病原名 *Macrophomina phaseolina* (Tassi) Goid.
- 3 作物名 メロン
- 4 発生場所 県西部
- 5 発生経過

令和4年6月下旬、県西部の施設栽培のメロンにおいて、地際部が黒炭色に変色し（図1）、収穫間際の株が萎凋する症状が確認された。島根県農業技術センターで分離菌の形態的特徴及び塩基配列を解析した結果、*Macrophomina phaseolina* (Tassi) Goid によるメロン炭腐病であることが判明した。

国内におけるメロン炭腐病の発生は、平成13年に岡山県で初めて発生が確認され、平成29年には青森県で発生が確認されている。

## 6 病徴及び診断

### 1) 病徴

茎の地際部が黒炭色に変色し（図1）、茎病斑部に分生子殻、茎と根に直径0.1mm程度の微小菌核（図2）を生じる。

### 2) 診断

本病害は、メロンつる枯病、メロン黒点根腐病などと混同しやすいが、黒炭色の茎地際部、細根の脱落、直径0.1mm程度の微小菌核（小黑点）から識別できる。

## 7 伝染経路及び宿主範囲

### 1) 伝染経路

本病は、茎と根に形成された微小菌核によって土壌伝染する。微小菌核は、土壌中で数年間生存し、連作によって菌密度は高まる。

## 2) 宿主範囲

本菌の宿主範囲は極めて広く、ウリ科、マメ科、キク科、ヒルガオ科をはじめとした多種の植物に感染報告がある。

## 8 防除対策

- 1) 連作を避ける。
- 2) 発生ほ場では、罹病残渣を抜き取り、ほ場外に持ち出して焼却もしくは埋没処分を行う。
- 3) 発生ほ場で使用した資材、農機具、長靴等は洗浄・消毒を行う。

## 9 その他

疑わしい症状が発生している場合は、島根県病害虫防除所（農業技術センター 資源環境研究部 病虫科：0853-22-6772）に連絡する。



図1 茎地際部が黒炭色に変色



図2 茎（左）と根（右）に形成された微小菌核（小黑点）

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：澤村・西山]

TEL：0853-22-6772

FAX：0853-24-3342

令和4年度 病害虫発生予察情報 技術情報第1号

令和4年7月1日  
島根県病害虫防除所

## 果樹におけるカメムシ類の発生状況について

果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）の発生が平年に比べ多くなっています。今後、果樹園へ移動し被害を及ぼす恐れがあります。発生状況の把握に努めるとともに、適切な管理及び防除をお願いします。

### 1 現在の発生状況

- 1) 出雲市の予察灯（100W水銀灯）における果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ（図1）、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）の累計誘殺数が、6月第6半旬までに597頭（平年211.1頭）と平年に比べ多い。（図2）
- 2) 6月下旬における巡回調査において、果樹カメムシ類による被害を確認した。
- 3) 中国地方1か月予報（7月2日～8月1日、広島地方气象台6月30日発表）によると向こう1か月の気温は平年に比べ平年並～高い確率が90%、降水量は平年に比べ少ない～平年並が80%と、本種の発生に助長的である。



図1 チャバネアオカメムシ（成虫）

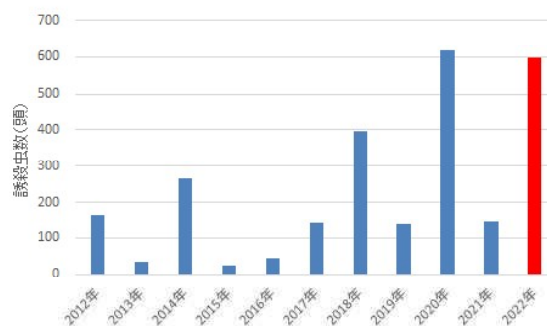


図2 果樹カメムシ類誘殺数（6月6半旬まで）

### 2 防除対策及び防除上の注意事項

- 1) 山間地や山沿いの園ではカメムシ類の発生加害が多いので特に注意する。
- 2) ナシ（無袋）の摘果作業はほぼ終わっている。カキでは摘果作業が行われているが果実の被害の有無に注意する。

Ⅷ) 気象表 (令和4年)

観測地点：出雲市芦渡町2440 (海拔20m)

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時数	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1月	1	5.5	5.6	8.8	9.3	0.4	1.8	5.0	19.0	13.0	9.4
	2	6.2	5.3	11.6	8.9	0.3	1.5	0.0	20.0	24.0	9.0
	3	3.9	5.0	7.2	8.6	0.6	1.3	19.5	21.3	8.1	8.8
	4	4.5	4.7	7.1	8.3	2.0	1.1	16.5	21.4	5.0	8.6
	5	4.0	4.4	7.8	8.0	0.4	0.9	6.0	20.2	11.4	8.7
	6	5.3	4.3	9.9	7.9	0.7	0.7	5.0	21.4	18.6	11.7
合計, 平均		4.9	4.9	8.8	8.5	0.7	1.2	52.0	123.3	80.1	56.2
2月	1	3.7	4.4	6.7	8.2	-0.7	0.5	4.5	16.3	5.1	11.3
	2	4.0	4.7	8.3	8.6	-0.1	0.6	4.0	16.7	14.6	12.2
	3	5.4	4.9	10.6	9.0	-0.1	0.8	4.5	17.7	18.2	13.2
	4	1.7	5.2	5.0	9.5	-1.5	0.7	17.0	18.3	3.9	15.0
	5	2.5	5.6	5.7	10.1	-0.8	0.9	4.5	18.5	12.2	17.3
	6	7.2	6.0	12.3	10.6	0.7	1.1	3.0	11.5	21.0	10.9
合計, 平均		3.8	5.1	7.8	9.3	-0.5	0.8	37.5	99.0	75.0	79.9
3月	1	7.9	6.4	12.2	11.0	2.4	1.5	19.0	19.5	21.0	19.1
	2	5.4	6.9	12.6	11.6	-1.3	1.9	0.0	19.1	41.4	20.7
	3	14.0	7.4	18.8	12.4	8.2	2.2	21.5	19.3	27.0	22.9
	4	8.5	8.0	12.7	13.2	5.2	2.6	33.0	20.4	16.4	24.2
	5	8.6	8.6	15.1	13.7	2.3	3.0	6.0	20.4	26.1	24.7
	6	12.4	9.4	17.9	14.5	7.2	3.7	17.5	24.0	33.9	31.2
合計, 平均		9.6	7.8	15.0	12.8	4.1	2.5	97.0	122.7	165.8	142.8
4月	1	8.1	10.3	15.5	15.6	0.1	4.5	0.0	19.9	54.0	28.0
	2	13.3	11.2	20.8	16.5	5.3	5.3	0.0	19.0	52.4	29.2
	3	15.3	12.2	18.5	17.5	11.3	6.2	19.5	18.5	15.0	30.4
	4	12.1	13.1	20.6	18.6	4.1	7.2	0.0	18.1	52.7	31.3
	5	17.2	14.0	23.3	19.4	11.9	8.0	3.0	18.5	30.4	32.4
	6	15.2	14.9	19.1	20.4	11.2	8.8	132.5	18.7	25.3	33.6
合計, 平均		13.5	12.6	19.6	18.0	7.3	6.7	155.0	112.7	229.8	184.9
5月	1	13.3	15.8	20.5	21.4	5.7	9.8	0.5	20.6	51.4	33.9
	2	16.8	16.4	22.8	21.9	11.2	10.5	0.0	24.4	40.1	33.2
	3	17.3	16.9	21.8	22.3	13.2	11.1	18.0	24.2	11.6	33.2
	4	17.2	17.5	24.4	23.1	9.8	11.7	0.0	19.3	41.9	34.5
	5	19.7	18.2	27.0	23.8	12.1	12.3	0.0	16.9	52.6	34.9
	6	20.6	18.8	25.7	24.2	14.5	13.2	27.5	21.4	45.2	40.7
合計, 平均		17.6	17.3	23.8	22.8	11.2	11.5	46.0	126.8	242.8	210.4
6月	1	20.1	19.4	26.1	24.8	14.0	14.2	9.0	17.7	46.5	32.5
	2	19.0	20.2	24.7	25.4	14.1	15.3	20.5	18.4	28.6	30.6
	3	20.1	20.9	24.7	25.8	16.9	16.3	4.5	23.7	16.3	28.7
	4	23.2	21.4	28.5	26.1	18.1	17.2	0.0	32.4	55.6	26.3
	5	26.1	22.1	30.8	26.5	21.5	18.2	45.0	42.7	23.4	23.1
	6	28.0	22.9	32.3	27.1	23.3	19.3	1.0	51.8	42.2	21.2
合計, 平均		22.7	21.2	27.8	26.0	18.0	16.8	80.0	186.7	212.6	162.4

月 半月		平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時数	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7 月	1	28.0	23.7	34.2	27.7	22.7	20.2	0.5	53.1	33.9	21.4
	2	26.6	24.4	30.5	28.4	23.5	20.9	11.0	48.7	18.6	23.1
	3	25.5	25.0	29.8	29.1	22.5	21.4	66.5	44.5	15.4	25.9
	4	25.4	25.6	29.0	29.8	22.4	21.8	111.5	36.5	21.7	30.5
	5	25.1	26.2	30.0	30.6	21.1	22.3	13.5	26.1	11.7	34.6
	6	28.4	26.7	34.7	31.3	23.9	22.7	17.5	22.4	43.6	44.3
合計, 平均		26.6	25.3	31.5	29.5	22.7	21.6	220.5	231.3	144.9	179.8
8 月	1	29.4	27.1	33.3	31.9	26.5	22.9	1.0	17.6	35.7	37.4
	2	29.2	27.1	33.4	32.0	25.2	22.9	0.0	21.1	36.5	36.1
	3	28.7	26.8	32.4	31.7	25.3	22.8	90.0	24.7	24.4	34.2
	4	26.7	26.4	31.2	31.2	22.7	22.4	73.5	24.6	21.2	32.9
	5	26.0	25.9	29.9	30.8	23.2	21.9	11.0	24.3	21.9	31.6
	6	24.6	25.3	30.8	30.2	19.9	21.2	21.0	33.6	39.8	35.4
合計, 平均		27.3	26.4	31.8	31.2	23.7	22.3	196.5	145.9	179.5	207.6
9 月	1	24.9	24.5	30.4	29.3	21.1	20.5	90.5	32.8	15.2	27.2
	2	23.8	23.6	28.6	28.4	19.9	19.6	17.5	34.0	9.0	25.9
	3	26.2	22.8	31.9	27.6	22.8	18.7	0.5	32.5	33.1	25.5
	4	24.3	21.8	29.7	26.8	19.4	17.6	31.5	30.0	10.6	25.5
	5	20.2	20.8	26.7	25.9	14.9	16.4	0.0	27.7	22.9	25.3
	6	20.5	19.9	26.1	25.0	16.5	15.4	13.5	25.2	27.1	24.5
合計, 平均		23.3	22.2	28.9	27.2	19.1	18.0	153.5	182.2	117.9	153.9
10 月	1	21.2	19.1	27.1	24.2	15.2	14.5	17.5	21.2	26.1	24.2
	2	16.3	18.2	20.6	23.4	12.6	13.5	25.5	17.6	11.3	25.4
	3	16.6	17.2	23.1	22.6	10.8	12.2	0.0	18.0	37.1	26.6
	4	15.9	16.2	22.4	21.7	11.4	11.1	1.0	20.5	30.3	26.4
	5	15.1	15.3	21.1	20.7	9.5	10.2	32.0	21.2	27.6	24.6
	6	13.0	14.4	20.6	19.7	7.1	9.3	0.5	22.5	47.5	27.8
合計, 平均		16.2	16.6	22.4	22.0	11.0	11.7	76.5	121.0	179.9	155.0
11 月	1	13.1	13.6	19.7	18.9	7.9	8.5	0.0	17.1	25.1	22.7
	2	11.9	13.1	20.1	18.2	5.6	8.1	0.0	17.7	44.8	21.0
	3	14.7	12.2	20.6	17.0	8.3	7.4	5.0	19.6	31.9	18.2
	4	11.1	11.1	18.7	15.8	5.9	6.4	1.0	19.6	30.5	16.4
	5	12.4	10.3	17.6	14.9	7.7	5.6	8.5	18.8	16.8	15.1
	6	13.8	9.6	20.0	14.1	7.8	5.0	10.0	20.9	19.9	13.7
合計, 平均		12.8	11.7	19.5	16.5	7.2	6.8	24.5	113.7	169.0	107.1
12 月	1	7.7	8.7	11.3	13.0	2.8	4.4	0.0	24.0	4.9	12.1
	2	8.7	7.9	13.5	12.0	3.7	3.8	0.0	24.7	21.9	10.7
	3	7.1	7.3	11.1	11.1	4.1	3.4	20.5	22.4	8.5	10.0
	4	4.3	6.9	6.6	10.7	1.3	3.0	17.5	19.9	2.3	10.0
	5	4.0	6.6	7.1	10.4	0.1	2.7	34.5	19.0	2.2	10.0
	6	6.3	6.1	9.2	9.9	3.5	2.2	3.5	22.8	10.4	12.0
合計, 平均		6.3	7.3	9.8	11.2	2.6	3.3	76.0	132.8	50.2	64.8

西暦年の1位が1の年から数えて、連続する30年間について算出した累年平均値を平年値という。これをその統計期間に引き続く10年間使用し、10年ごとに更新する。したがって2021～2030年の間は、1991～2020年(平成3～令和2年)の資料から算出された平年値を使用する。

令和4年度 農作物有害動植物発生予察事業年報  
2024年 3月 31日 発行  
編集・発行 島根県農業技術センター  
(資源環境研究部 病虫科)  
島根県病虫害防除所  
〒693-0035 島根県出雲市芦渡町2440番地  
電 話 (0853) 22-6772  
F A X (0853) 24-3342